

2025 年度 第 2 学年 授業要覧



東京歯科大学短期大学歯科衛生学科

Tokyo Dental Junior College
Department of Dental Hygiene

番号 _____

氏名 _____

目 次

東京歯科大学短期大学のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、コンピテンシー……	1
英語Ⅱ（歯科衛生士英語）……………	2－ 4
臨床栄養学……………	5－ 6
看護学概論……………	7－ 9
保健医療福祉論……………	10－12
歯科矯正学……………	13－15
口腔外科学……………	16－18
口腔インプラント学……………	19－20
全身管理学……………	21－24
実習Ⅰ（歯科予防処置）……………	25－28
実習Ⅱ（歯科診療補助）……………	29－32
口腔機能リハビリテーション論……………	33－34
演習Ⅰ（障害者歯科・摂食機能療法）……………	35－37
在宅歯科衛生管理論……………	38－39
医科疾患患者への歯科衛生……………	40－42
専門職間の連携活動論……………	43－44
歯科衛生実践論……………	45－46
地域歯科衛生学……………	47－49
実習Ⅲ（歯科保健指導）……………	50－52
演習Ⅱ（歯科保健指導）……………	53－55
卒業研究……………	56－58
臨床・臨地実習Ⅰ……………	59

東京歯科大学短期大学のカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、コンピテンシー

1. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

- 1) 歯科衛生士業務である歯科疾患の予防処置、歯科診療補助及び歯科保健指導の専門性を高めるために、時代に対応した高度な歯科医療に関する知識及び技能を修得する。
- 2) 高齢社会において、楽しく、美味しく、安全な食事を支援するためには、食べる機能を担う口腔機能の維持増進が重要という考えから、口腔機能の変化や機能障害を把握し、統合して支援を行うための知識と技能と態度を修得する。
- 3) 医学歯学のみならず、福祉など幅広い分野を学び、これらを統合して身につけることによって、医療・福祉の各領域の視点を持ちつつ、多職種と協働しながら、歯科衛生の立場から総合的な知識と技能を駆使して人々の健康づくりに寄与するための知識と技能と態度を修得する。

2. ディプロマ・ポリシー（卒業認定、学位授与の方針）

カリキュラム・ポリシーに基づき構築された各授業科目に合格することによりコンピテンシー（学修成果）を修得したものと認定する。一つひとつの授業科目に合格し、コンピテンシーの修得を積み重ねることにより、最終学年において全ての授業科目に合格することにより、本短期大学が示すディプロマ・ポリシーに示した人材に到達した者として学位を授与する。

- 1) 歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力をもつ人材
- 2) 高齢社会の進展に伴い必要とされる歯科医療の変化を把握し対応できる人材
- 3) 医療、介護の総合的な確保が地域包括ケアシステムにおいて推進される中で、専門職として多職種と協働して歯科保健医療が提供できる人材
- 4) 教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域社会の様々な場に対応できる人材

3. コンピテンシー（行動特性・能力）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定、学位授与の方針）を満たすための要素として、コンピテンシー（行動特性・能力）を「学修成果」と位置付けてディプロマ・ポリシーと関連付けて示しています。

- 1) **アイデンティティ・人間力**: 建学の精神である「ヒューマニズム」を尊重した教育理念を理解し、幅広い教養と深い感性を身に付け行動する。
- 2) **倫理に基づく行動力**: 医療人として、法と医療倫理を遵守するとともに高い倫理観に価値を置いて行動する。
- 3) **社会貢献力**: 地域社会における保健、医療、福祉、行政等の活動を通じて、国民の健康回復、維持、向上と疾病の予防に貢献する。
- 4) **コミュニケーション能力**: 患者、家族、医療関係者やその他の人々の心理・社会的背景を踏まえながら、状況に応じて相手を尊重して対話する。
- 5) **チーム医療・協働する力**: 歯科医師、医師、連携する全ての医療従事者や患者・家族に関わるすべての人の役割を理解し、チーム医療の担い手として協調・協働する。
- 6) **自己研鑽力**: 主体的に学び、他の医療従事者とともに研鑽しながら生涯にわたって自律的に学び続ける。
- 7) **問題探求力**: 課題の本質に目を向け問題意識を持ち探求する。
- 8) **プロフェッショナリズム・専門的実践能力**: 歯科衛生士としての社会的使命を自覚し、医療人としての適切な態度のもと、統合された知識と基本的技能を身につけ、臨床において実践する。

【ディプロマ・ポリシーとコンピテンシーの対応】

ディプロマ・ポリシー	コンピテンシー（学修成果）							
	①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
1. 歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力をもつ人材	○		○	○				○
2. 高齢社会の進展に伴い必要とされる歯科医療の変化を把握し対応できる人材	○	○				○	○	○
3. 医療、介護の総合的な確保が地域包括ケアシステムにおいて推進される中で、専門職として多職種と協働して歯科保健医療が提供できる人材	○	○		○	○		○	○
4. 教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域社会の様々な場に対応できる人材	○		○	○	○	○		○

科 目 名	英語 II(歯科衛生士英語)	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	今井 肇		
ナンバリング	A0302-2A		
実務経験	なし		
実務経験と教育内容 の関連性			

1. 教科の特徴

歯科医療の現場で、外国人患者と接する際に頻繁に使用する歯科英語、会話表現を 学び、たとえ流ちょうではなくても積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢をコミュニケーション主体の授業で身につける。テキストと並行して、歯科クリニック で使用する頻出会話表現を学習動画も活用して定着を図る。日本で働く外国人労働者や外国人観光客の増大に伴い、外国人が安心して歯科治療を 受けられる環境を醸成する上で、歯科衛生士の果たす役割は大きい。歯科衛生士として身につけるべきコミュニケーションスキル（聞く力・伝える力・人間関係構築力）を身につけ、信頼される歯科衛生士を育成することが本講座の目的である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（〇を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○			○	○			

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

英語を話す患者とのコミュニケーションができるようになるために、歯科衛生士として必要なコミュニケーションスキルを修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1）外国人患者への対応に必要な歯学英語と表現を適切に活用し、記述する。（40%）
- 2）歯科衛生士として、英語を使ったコミュニケーションを実践する。（30%）
- 3）アメリカで活躍する日本人歯科衛生士のビデオなどを見て、外国人患者への対応で覚えておくべき英語表現を選択する。（20%）
- 4）教師やクラスメイトとのインタラクションに積極性を示す。（10%）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1）受動的方法：
「講義」
- 2）能動的方法：
「ディスカッション」： 講義中に学生を指名して、答えさせたり、ペアワーク・ グループワークに取り組む。
- 3）媒体：
「教科書」「スライド」「プリント」

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1）形成的評価：
授業中に指名する中で、予習の取り組み状況进行评估する。（10%）
- 2）総括的評価：
「歯科英単語試験（2 回実施予定）」（20%）
「定期試験（2 回）」：空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験（50%）
「歯科英会話リスニング試験（1 回）」（20%）

6. 事前学修・事後学修

- 1）事前学修
取り上げるレッスンの中で解らない単語の意味を調べておく。（15 分）
- 2）事後学修
学んだレッスンのダイアログをスラスラと読めるまで音読し、使える表現をインテイク（自ら知識を取り込み、理解しようとする）ことする。（15 分～30 分）
- 3）事前学修・事後学修の評価
事前学修： 講義中の指名で確認する。
事後学修： 講義中の指名で確認する。

7. 教科書

山本一世・藤田淳一	歯科衛生士英語ワークブック (第 1 版)	永末書店
-----------	--------------------------	------

8. 参考図書

授業において適宜紹介する。

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/14	月	3	オリエンテーション(授業の進め方・ 予習と復習の仕方) エッセイライティング『私の好きなこと』	講義	14 階 教室	今井
2	4/21	月	3	Lesson 2: Calling and Guiding (呼び出しと案内)	講義	14 階 教室	今井
3	4/28	月	3	Lesson 3; Medical Interview (医療面接)	講義	14 階 教室	今井
4	5/12	月	3	Lesson 4: Oral Care Interview (口腔ケアに関する医療面接)	講義	14 階 教室	今井
5	5/19	月	3	Lesson 5: Basic Procedure(基本動作)	講義	14 階 教室	今井
6	5/26	月	3	Lesson 6: Periodontal Probing (歯周検査)	講義	14 階 教室	今井
7	6/2	月	3	第 1 回英単語テスト	講義	14 階 教室	今井
8	6/9	月	3	Lesson 7 : Scaling(スケーリング)	講義	14 階 教室	今井

9	6/16	月	3	中間試験	講義	14 階 教室	今井
10	6/23	月	3	Lesson 8: Brushing Instructions (歯磨き指導)	講義	14 階 教室	今井
11	6/30	月	3	Lesson 9: Stain Removal (ステイン除去)	講義	14 階 教室	今井
12	7/7	月	3	Lesson 10: Teeth Whitening (ホワイトニング)	講義	14 階 教室	今井
13	7/14	月	3	Lesson 11: Fluoride Application (フッ化物塗布)	講義	14 階 教室	今井
14	9/1	月	3	Lesson 12: X-ray(エックス線写真)	講義	14 階 教室	今井
15	9/8	月	3	第2回英単語テスト&リスニングテスト	講義	14 階 教室	今井

科 目 名	臨床栄養学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※杉浦令子、※大久保真衣		
ナンバリング	B0417-2A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	医師、歯科医師、管理栄養士として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、患者の栄養管理に必要な基礎知識について講義を行う。		

1. 教科の特徴

チーム医療における多職種連携では、原疾患の病態はもちろん栄養状態の評価や栄養療法の種類や選択に関する情報共有が必要であり、最低限の知識が求められる。療養中に経口摂取や一部の栄養素の摂取が制限される病態を把握しておくことは、経口摂取の再開に向け、歯科衛生士としてできる支援方法を検討する上でも必要である。これらを修得することで、高齢社会の進展に伴う医療の変化に対応した専門職として多職種と協働して歯科保健医療を提供するために必要な基礎知識の根幹とする。栄養評価、管理方法の基礎知識については管理栄養士、疾患の特性と栄養管理の関連については各診療科の医師が授業を担当する。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（〇を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②論理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○	○			○	○	○

2. 一般目標（GI0：General Instructional Objective）

チーム医療に参画していくために必要な栄養管理に関する基礎知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1）歯科衛生士が栄養に関する知識を修得すべき理由を説明する。（20％）
- 2）栄養アセスメントの方法を説明する。（10％）
- 3）栄養ケアプランの手順を説明する。（10％）
- 4）栄養ケアの方法を説明する。（10％）
- 5）各疾患別の病態と栄養管理の関連を説明する。（50％）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1）受動的方法：講義
- 2）能動的方法：レポート
- 3）媒体：スライド、プリント（学習に必要な資料を適宜作成して配布する）

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1）形成的評価：
 - ・教科書の各章末にある練習問題を解き評価する。
- 2）総括的評価：
 - ・定期試験は講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。（100％）

6. 事前学修・事後学修

1）事前学修

- 第1回：配布資料と教科書の該当箇所に（P234～253 P294～303）目を通しておく。（10分）
- 第2・3回：授業前に配布資料を一読しておく。（10分）
- 第4回：教科書の該当箇所に（P70～82）目を通しておく。（10分）
- 第5回：教科書の該当箇所に（P40～53）目を通しておく。（10分）
- 第6回：教科書の該当箇所に（P83～105）目を通しておく。（15分）
- 第7回：教科書の該当箇所に（P139～146）目を通しておく。（10分）
- 第8回：教科書の該当箇所に（P119～138）目を通しておく。（10分）

2）事後学修

- 第1～3回：当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。（10分）
- 第4～8回：教科書の該当箇所にある各章のチェック問題を解き、重要ポイントをリストアップする。（20分）

3）事前学修・事後学修の評価

各章末の練習問題を用いて行う。

7. 教科書

本田佳子、曾根博仁編	栄養科学イラストレイテッド	羊土社
------------	---------------	-----

8. 参考図書

多賀昌樹編著	臨床栄養学 基礎から学べる	アイ・ケイ・コーポレーション
明渡陽子、長谷川輝美、山崎大治編著	カレント 臨床栄養学 第3版	建帛社
本田佳子編	栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第13版	医歯薬出版
本田佳子編集	臨床栄養学Ⅰ総論	中山書店
本田佳子編集	臨床栄養学Ⅱ各論	中山書店
花田信弘、萩原芳幸、北川昇監修	臨床歯科栄養学	口腔保健協会
本田佳子、曾根博仁編集	栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 基礎編 第3版	羊土社

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/14	月	4	臨床歯科栄養学 ・歯科における臨床栄養の必要性を説明する。 ・世代別の歯科診療における栄養指導について説明する。	講義	14階教室	大久保
2	4/21	月	4	栄養アセスメント ・主なアセスメントの指標を列挙する。 ・栄養アセスメントの方法について説明する。	講義	14階教室	杉浦
3	4/28	月	4	栄養ケアプラン ・栄養ケアプランの手順について説明する。 ・栄養ケアの方法について説明する。	講義	14階教室	杉浦
4	5/12	月	4	循環器疾患と栄養 ・主な循環器疾患を列挙する。 ・循環器疾患の治療と栄養食事療法について説明する。	講義	14階教室	G S 循環器内科医師
5	5/19	月	4	消化器疾患と栄養 ・主な消化管疾患を列挙する。 ・消化管疾患の治療と栄養食事療法について説明する。	講義	14階教室	G S 消化器内科医師
6	5/26	月	4	腎・尿路疾患と栄養 ・主な腎・尿路疾患を列挙する。 ・腎・尿路疾患の治療と栄養食事療法について説明する。	講義	14階教室	G S 腎臓内分泌内科医師
7	6/2	月	4	呼吸器疾患と栄養 ・主な呼吸器疾患を列挙する。 ・呼吸器疾患の治療と栄養食事療法について説明する。	講義	14階教室	G S 呼吸器内科医師
8	6/9	月	4	神経疾患と栄養 ・主な神経疾患を列挙する。 ・神経疾患の治療と栄養食事療法について説明する。	講義	14階教室	G S 神経内科医師

科 目 名	看護学概論	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※菅原聡美		
ナンバリング	B0701-2B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	看護師として実務経験のある教員が、病院等での勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。専門的な看護技術については、専門看護師、認定看護師が授業を担当する。		

1. 教科の特徴

医療チームの一員である看護師とはどのような職業か、看護とは何かについて学ぶ。また、療養上の世話をするにあたって基本となる姿勢や考え方、病をもちながら生きる対象に対して、どのような援助が必要なのかを考えるための基本を学ぶ。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○	○			○	○	

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

- ・看護の歴史の変遷を踏まえ、看護の役割と機能、看護の対象、看護提供システム、看護における法的責任と倫理を学び、歯科衛生士としての役割に関連づける。
- ・急性期医療から在宅医療までのチーム医療が推進される中での看護の役割機能の拡大を理解し、チームの一員である歯科衛生士としての役割遂行に応用する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1）看護の概念および目的を説明する。（15%）
- 2）看護の対象理解に関する看護理論の活用について説明する。（15%）
- 3）看護活動の場と保健・医療・福祉チームにおける看護の役割・機能から歯科衛生士としての役割・機能を説明する。（15%）
- 4）歯科衛生士業務に活用できる基本的な看護技術を説明する。（25%）
- 5）医師・歯科医師・看護師の指示で歯科衛生士に活用可能な医療業務を説明する（30%）。

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1）受動的方法：講義
- 2）能動的方法：

ディスカッション

- 3）媒体：スライドおよびスライドのプリント

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1）形成的評価：課題レポートから評価する
- 2）総括的評価：
 - ・講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択の記述試験で評価する。（90%）
 - ・講義内容の理解度を、課題に対するレポートで評価する（10%）

6. 事前学修・事後学修

- 1）事前学修：特に必要なし
- 2）事後学習：当日配布資料を再確認し、各回で重要ポイントをリストアップする。（15 分）
- 3）事前学修・事後学修の評価なし

5. 教科書

特になし		
------	--	--

6. 参考図書

柴原孝彦、福井和枝、長谷川淳子、古川真代、小西悦子	歯科衛生士のための看護学大意	医歯薬出版株式会社
茂野香おる、吉岡京子、林千冬、益 加代子、玉田雅美、岩本里織、柳澤理子、大野かおり 著	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論 第 17 版	医学書院
F. ナイチングール 著／湯楨ます、薄井坦子、小玉香津子、田村 真、小南吉彦 訳	看護覚え書 第 7 版	現代社
歯科衛生士国試問題研究会	徹底分析年度別歯科衛生士国家試験問題集	医歯薬出版

7. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

8. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目（SB0s など）	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/10	木	1	総論 ① 総合病院で遭遇しやすい基礎疾患を 列挙する。 ② 看護を要する患者への口腔衛生管理 に関連した医学的知識を説明する。	講義	14 階 教室	大木
2	4/17	木	1	看護の概念と歴史的変遷 ① 看護の定義・理念について知る。 ② 看護の歴史的変遷と近代看護の成立 について知る。	講義	14 階 教室	菅原
3	4/24	木	1	看護の機能と役割 ① 看護の使命・目的を理解する。 ② 看護の役割を様々な理論を基に理 解する。 ③ 看護の役割機能の拡大を知る。	講義	14 階 教室	菅原
4	5/8	木	1	看護の対象としての人間 ① 看護の対象を様々な理論を活用 し、発達し続ける存在として捉え、説明 できる。 ② 人間の欲求（マズローの基本的欲求 階層）について説明できる。 ③ 危機理論について説明できる。 a. 健康障害をもつ対象の心理状態が 理解できる。 b. 死が間近に迫っている看護の対象 者の心理状態とその関わり方を理 解できる。 c. ストレス理論と E. キュブラー=ロ スによる死の受容過程から死にゆく 人の心理過程を理解できる。	講義	14 階 教室	菅原
5	5/15	木	1	看護の対象理解と看護過程の展開 ① 看護の対象を理論を活用し理解で きる。 ② 看護過程は、個別的で根拠のある看 護を実践するために必要な道具であ ることを理解できる。 ③ 事例を用いて看護過程の展開が理解 できる。	講義	14 階 教室	菅原

6	5/22			看護サービス提供の場と看護における「倫理」 ① 看護職者が看護サービスの担い手であることを理解し、説明できる。 ② チーム医療の目的と機能を説明できる。 ③ 看護サービス提供の場がわかる。 ④ 職業倫理としての看護倫理について理解できる。	講義	14階教室	菅原
7	5/29	木	1	基礎看護技術（1）看護とコミュニケーション ① 患者との信頼関係の基本となるコミュニケーションの意義がわかる。 ② 看護におけるコミュニケーション技法が理解できる。 ③ 自分のコミュニケーションの傾向を知り、課題を見出す。	講義	14階教室	川北真衣
8	6/5	木	1	基礎看護技術（2）慢性疾患とともに生活する患者の看護 ①慢性疾患とともに生活する人の特徴について理解する。 ②慢性疾患とともに生活する人のセルフマネジメント力を高める支援について理解する。	講義	14階教室	金井千晴
9	6/12	木	1	基礎看護技術（3）スキン・ケアの予防と管理 ①スキン・ケアとは何か理解する。 ②皮膚の構造と機能について理解する。 ③スキン・ケアの予防の基本を理解する。 ④皮膚を守るための移乗介助のポイントとボディメカニクスについて理解する。	講義	14階教室	宮台七重
10	6/19	木	1	基礎看護技術（4）体温・脈拍・呼吸・血圧・意識レベルの見方 ① フィジカルアセスメントに必要な基本的な知識、技術、態度を学ぶことができる。 ② 学んだ技術を用いて得た身体情報について解釈することができる。 ③ 解釈した内容について専門用語を用いながら表現することができる。	講義	14階教室	小松千代子

11	6/26	木	1	基礎看護技術（5）感染対策 ①医療従事者が注意すべき感染症を列挙する。 ② 感染症の予防方法を説明する。 ③ 口腔衛生管理上注意すべき感染症を説明する。	講義	14階教室	渡部昌幸
12	7/3	木	1	基礎看護技術（6）食事の介助 ①人間にとっての食事・栄養摂取の意義を理解する。 ②食事・栄養摂取のアセスメント方法を理解する。 ③食事介助の視点とその方法が理解できる。 ④摂食障害、開口障害、咀嚼障害のある場合の食事形態の選択と介助の方法がわかる。 ⑤口腔ケアについて	講義	14階教室	杉山明子
13	7/10	木	1	基礎看護技術（7）救急時の対応 ①歯科治療中に発生しやすい救急医療を理解する。 ②救急対応の方法を説明する。	講義	14階教室	岡田美穂
14	7/17	木	1	基礎看護技術（8）がん患者への看護（外来化学療法を中心に） ① がん看護について説明する。 ② アピアランスケアを説明する。	講義	14階教室	名執理絵
15	9/4	木	1	基礎看護技術（9）認知症患者への看護 ① 認知症の症状について説明する。 ② 認知症患者に接する際の留意点を説明する。	講義	14階教室	宮本千恵

科 目 名	保健医療福祉論	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※鳥山佳則、※有友たかね		
ナンバリング	B0419-2A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	鳥山（歯科医師）は厚生労働省に長年勤務し、医療行政に精通している。 有友（歯科衛生士）は在宅医療などに従事し、地域包括ケアシステムに精通している。		

1. 教科の特徴

歯科衛生学概論では、歯科衛生士法を中心として、医療や福祉に従事する人（専門職）について学修した。保健医療福祉論では、地域包括ケアシステムや、医療、介護、などの社会保障制度について学修する。これらは、歯科衛生士の業務上、必要であるだけでなく、一人の社会人としても必要なものである。難解な各種制度を実務経験豊富な教員が分かりやすく講義する。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○		○		○			○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

カリキュラム・ポリシー及びディプロマポリシーに掲げた地域包括ケアシステム、医療・福祉の連携における歯科衛生士の役割を理解するために、基礎となる保健・医療・福祉の制度を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 医療法について説明する。(18%)
- 2) 薬事に関する法規について説明する。(7%)
- 3) 地域包括ケアシステムと介護保険制度について説明する。(30%)
- 4) 医療保険制度について説明する。(20%)
- 5) 歯科診療報酬について説明する。(5%)
- 6) 社会保障制度について説明する。(20%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：

講義
- 2) 能動的方法：

演習 ・与えられた課題についてシートに記入し、指名された者は口頭発表する。
・試験問題形式により知識を整理・定着させる。
- 3) 媒体：

オリジナルテキスト、教科書、演習

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：

プレテスト、ポストテスト
- 2) 総括的評価：

筆記試験（100%） 正誤+多肢選択+空欄補充（70%）、論述（30%）

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修

各回の内容で示したオリジナルテキストの該当箇所を通読する。(15分)
- 2) 事後学修

講義内容を振り返り、重要箇所を確認する。(15分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価

第1回から第13回まで、プレテスト、ポストテスト
(第14回と第15回は、まとめ講義のため、プレテスト、ポストテストは実施しない。)

7. 教科書

鳥山佳則	保健医療福祉論 2025	オリジナルテキスト
全国歯科衛生士教育協議会監修	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 2 保健・医療・福祉の制度 (1年次の歯科衛生学概論の教科書)	医歯薬出版

8. 参考図書

日本歯科衛生士会監修	歯科衛生士のための歯科診療報酬入門 2024-2025	医歯薬出版
------------	-----------------------------	-------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目（SB0s など）	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/9	水	2	シラバス説明 医療法 1 （オリジナルテキスト①1-43） ・病院と診療所の定義、開設、管理を説明する。 ・医療機能情報提供制度を説明する。	講義	14 階 教室	鳥山
2	4/16	水	2	医療法 2 （オリジナルテキスト①44-69） ・医療機関の広告規制を説明する。 ・医療安全支援センターを説明する。 ・医療事故調査・支援センターを説明する。 ・医療計画を説明する。 ・医療法人を説明する。	講義	14 階 教室	鳥山
3	4/23	水	2	薬事に関する法規 （オリジナルテキスト②） 演習 ・PC を活用し薬事に関する演習シートを作成・発表する。 講義 ・医薬品、医薬部外品、化粧品を説明する。 ・医療機器分類を説明する。 ・医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品を説明する。 ・院外処方と院内処方を説明する。	演習 講義	14 階 教室	鳥山
4	5/7	水	2	地域包括ケアと介護保険 1 （オリジナルテキスト③1-50） ・地域包括ケアシステムの定義を説明する。 ・地域包括ケアシステムの背景を説明する。 ・死因と要介護の原因の違いを説明する。 ・植木鉢の図と、自助・互助・共助・公助を説明する。	講義	14 階 教室	鳥山

5	5/14	水	2	地域包括ケアと介護保険 2 (オリジナルテキスト③51-75、④1-25) ・地域包括ケアシステムの施策を説明する。 ・地域包括支援センターを説明する。 ・介護保険制度の概要を説明する。	講義	14階教室	鳥山
6	5/21	水	2	地域包括ケアと介護保険 3 (オリジナルテキスト④1-61) ・介護保険制度の概要を説明する。 ・介護保険に関する主な職種を説明する。 ・介護保険の施設と高齢者の住まいを説明する。	講義	14階教室	鳥山
7	5/28	水	2	地域包括ケアと介護保険 4 (オリジナルテキスト④-2) ・歯科衛生士と地域包括ケアシステムについて説明する。	講義	14階教室	有友
8	6/11	水	2	医療保険制度 1 (オリジナルテキスト⑤1-58) 演習 ・PC を活用し医療保険制度に関する演習シートを作成・発表する。 講義 ・受診の実例を説明する。 ・医療費の支払いと請求を説明する。 ・公的医療保険の特徴を説明する。	演習 講義	14階教室	鳥山
9	6/11	水	3	医療保険制度 2 (オリジナルテキスト⑤25-75) ・公的医療保険の特徴を説明する。 ・後期高齢者医療制度と被用者保険を説明する。	講義	14階教室	鳥山
10	6/18	水	3	医療保険制度 3 (オリジナルテキスト⑤68-92) ・被用者保険と国民健康保険を説明する。	講義	14階教室	鳥山
11	6/25	水	2	歯科診療報酬 (オリジナルテキスト⑥) ・歯科点数表の特徴を説明する。	講義	14階	鳥山

				・歯周治療の請求事例を説明する。		教室	
12	7/2	水	2	社会保障 1 (オリジナルテキスト⑦1-50) ・社会保険 (年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険) を説明する。 ・出産育児一時金、出産手当金、育児休業給付金を説明する。	講義	14階教室	鳥山
13	7/9	水	2	社会保障 2 (オリジナルテキスト⑦51-68) ・公的扶助を説明する。 ・社会福祉を説明する。 ・社会保障給付費を説明する。	講義	14階教室	鳥山
14	7/16	水	2	総復習 1 講義内容全般について演習問題に解答し、知識を整理定着する。	演習 講義	14階教室	鳥山
15	9/3	水	2	総復習 2 講義内容全般について演習問題に解答し、知識を整理定着する。	演習 講義	14階教室	鳥山

科 目 名	歯科矯正学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※山下悠、※有泉大		
ナンバリング	B0420-2A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を 活かし、臨床現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

歯科矯正学とは、歯列や咬合の不正な状態を正常な形態や機能へと治療する歯科臨床科目である。歯の位置・歯列の形態・上下顎の咬合などの不正な状態を把握し、正常な状態と比較しながら咬合機能を含めた不正咬合の治療・予防についての理解を深めることを目的とする。

歯科衛生士として歯科矯正学の概要と治療目的および治療の流れを把握するとともに、矯正治療における口腔衛生の重要性と特殊性を理解した口腔健康管理を実践するために必要な知識を学習する。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（〇を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づ く行動力	③社会貢献力	④コミュニケー ーション能力	⑤協働する力	⑥自己 研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的 実践能力
○		○	○				○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

- 1）歯科矯正学の概要と治療目的および治療の流れが説明でき、円滑な歯科矯正診療の補助と介助に必要な知識を修得する。
- 2）矯正治療における口腔衛生の重要性と特殊性を理解し、歯科保健指導を行うために必要な知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1）顎顔面の成長・発育について説明する。（10％）
- 2）正常咬合と不正咬合について説明する。（15％）
- 3）矯正歯科の診断について説明する。（15％）
- 4）矯正力および保定について説明する（10％）。
- 5）矯正装置について説明する。（15％）
- 6）口腔顎顔面の形成異常と変形について説明する。（5％）
- 7）健康保険が適用される矯正歯科治療について説明する。（5％）
- 8）矯正歯科診療の業務を理解し説明する。（10％）
- 9）矯正歯科患者の口腔保健指導を説明する。（10％）
- 10）矯正歯科患者の口腔筋機能療法について説明する。（5％）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1）受動的方法：講義
- 2）能動的方法：矯正装置、矯正器材・器具に関するディスカッション、
プレテスト・ポストテスト
- 3）媒体：教科書、スライド、シラバス

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1）形成的評価：各回の講義開始時と終了時にプレテスト・ポストテストを行う。
- 2）総括的評価：定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。（100％）

6. 事前学修・事後学修

1）事前学修

- 第1回：教科書 2～12 ページ、および 137～140 ページを読んでおく。（10 分）
第2回：教科書 13～31 ページを読んでおく。（10 分）
第3回：教科書 32～43 ページを読んでおく。（10 分）
第4回：教科書 44～54 ページを読んでおく。（10 分）
第5回：教科書 55～75 ページを読んでおく。（10 分）
第6回：教科書 76～86 ページを読んでおく。（10 分）
第7回：教科書 87～108 ページを読んでおく。（10 分）
第8回：教科書 87～108 ページを読んでおく。（10 分）
第9回：教科書 109～123 ページを読んでおく。（10 分）
第10回：教科書 124～136 ページを読んでおく。（10 分）
第11回：教科書 142～160 ページを読んでおく。（10 分）
第12回：教科書 160～173 ページを読んでおく。（10 分）
第13回：教科書 142～173 ページを読んでおく。（10 分）
第14回：教科書 174～201 ページを読んでおく。（10 分）
第15回：教科書 202～225 ページを読んでおく。（10 分）

2）事後学修

- 第1回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）
第2回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）
第3回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）
第4回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）
第5回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）
第6回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）
第7回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）
第8回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）
第9回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）
第10回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）
第11回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）
第12回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）
第13回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）
第14回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）
第15回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップ。（15 分）

3) 事前学修・事後学修の評価

- 第1回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。
- 第2回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。
- 第3回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。
- 第4回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。
- 第5回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。
- 第6回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。
- 第7回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。
- 第8回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。
- 第9回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。
- 第10回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。
- 第11回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。
- 第12回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。
- 第13回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。
- 第14回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。
- 第15回：事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学修：ポストテストを行う。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修 / 新井一仁 編著	歯科衛生学シリーズ 第2版 歯科矯正学	医歯薬出版
------------------------------	------------------------	-------

8. 参考図書

末石研二 編著	歯科衛生士のための矯正歯科治療	わかば出版
山口秀晴、大野肅英、嘉ノ海 龍三 監修	MFT 入門 初歩から学ぶ口腔筋機能 療法	わかば出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時／本館9階歯科矯正学講座医局

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	4/9	水	1	矯正歯科治療の目的と必要性 歯科矯正学の定義と治療の目的、治療手順とその種類、必要性、利益とリスク、歯科衛生士の役割について理解する。また、矯正歯科治療の歴史を学習する。	講義	14階教室	山下
2	4/16	水	1	身体及び顎顔面の成長発育 成長発育の定義、パターン、成長速度曲線、生理的年齢について理解する。また、頭蓋顎顔面と歯列ならびに口腔機能の成長について学習する。	講義	14階教室	山下
3	4/23	水	1	正常咬合と不正咬合 正常咬合における咬合様式とその成立要件、顎位と咬合位、咀嚼運動について理解する。また、不正咬合の状態について個々の歯の位置異常や歯列弓の異常、Angle 分類について学習する。	講義	14階教室	山下
4	5/7	水	1	不正咬合の原因と予防 不正咬合の原因について先天的、後天的原因について理解するとともに、その予防法について学習する。	講義	14階教室	有泉
5	5/14	水	1	矯正歯科診断 矯正治療における診断体系、医療面接と検査項目、症例分析法について学習する。	講義	14階教室	山下
6	5/21	水	1	矯正歯科治療と矯正力・顎整形力・保定 矯正装置の基本として矯正力と固定及び歯の移動様式の関係、組織変化について理解する。また、治療後の保定と再発について学習する。	講義	14階教室	山下
7	5/28	水	1	矯正装置 1 矯正装置の分類を理解し、可撤式装置、固定式装置、機能的矯正装置についてその適応症と使用上の注意点について学習する。	講義	14階教室	山下
8	6/4	水	1	矯正装置 2 拡大装置、顎外固定装置、口腔習癖除去装置の適応症と使用上の注意点について理解し、さらに保定装置について学習する。	講義	14階教室	山下

9	6/11	水	1	矯正治療の実際 1 上下の前後的、垂直的不調和 叢生、上顎前突、下顎前突の各症例についてその治療手順を理解し、さらに過蓋咬合ならびに開咬症例の治療について学習する。	講義	14階教室	有泉
10	6/18	水	1	矯正治療の実際 2 成人矯正、口腔顔面の形態異常と変形、埋伏と歯数異常 成人における包括的矯正治療と補助的矯正治療について理解し、さらに先天異常、外科的矯正治療、埋伏歯の治療について学習する。	講義	14階教室	有泉
11	6/25	水	1	矯正歯科治療における歯科衛生士の役割 マルチブラケット装置を構成する器材、装置の装着・調整・撤去に用いる器材について理解する。	講義	14階教室	山下
12	7/2	水	1	その他矯正装置の製作・調整に用いる器材、検査・分析に用いる器具、マルチブラケット装置の装着・撤去の手順について理解する。	講義	14階教室	山下
13	7/9	水	1	矯正歯科治療における歯科衛生士の役割 矯正歯科治療時の業務（矯正器具・器材） 矯正歯科治療に用いる器具、材料の用途について理解する。さらに各種矯正装置装着時の補助ならびに使用上の注意点について学習する。	講義	14階教室	山下
14	7/16	水	1	矯正歯科治療における歯科衛生士の役割 口腔筋機能療法と口腔保健管理 矯正治療における口腔保健管理（リスク判定、食事指導、ブラークコントロール） 口腔習癖と口腔周囲筋の機能訓練法としての口腔筋機能療法について理解する。	講義	14階教室	山下
15	9/3	水	1	矯正歯科治療に関わる歯科衛生の実践 混合歯列期、永久歯列期、成人矯正などにおける事例について学習する。 まとめ 歯科矯正学の学習進捗を評価し、知識の定着を図る。	講義	14階教室	山下

科 目 名	口腔外科学	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※片倉 朗、※笠原清弘、※菅原圭亮、※山本雅絵、※岩本昌士 ※西山明宏、※小山 侑、※小谷地雅秀、※加藤慎彬		
ナンバリング	B0421-2A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を 活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

口腔外科学では超高齢社会において幅広い口腔疾患への知識と多職種との連携に必要な知識を修得する教科である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づ く行動力	③社会貢献力	④コミュニケ ーション能力	⑤協働する力	⑥自己 研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的 実践能力
○	○					○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

顎口腔に発症する先天・後天異常、腫瘍、炎症等の疾患に対する歯科衛生士業務を理解するために、口腔外科学の知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 口腔外科における歯科衛生士の役割について述べる。(7.5%)
- 2) 口腔・頭蓋・顎顔面領域の先天異常・変形を説明する。(7.5%)
- 3) 口腔顎顔面領域の損傷を説明する。(7.5%)
- 4) 口腔顎顔面領域の炎症を説明する。(7.5%)
- 5) 唾液腺疾患を説明する。(7.5%)
- 6) 口腔顎顔面領域の嚢胞を説明する。(7.5%)
- 7) 口腔粘膜疾患を説明する。(5%)
- 8) 口腔顎顔面領域の良性腫瘍・悪性腫瘍を説明する。(5%)
- 9) 血液疾患を説明する。(7.5%)
- 10) 口腔顎顔面領域の痛み、麻痺を説明する。(7.5%)
- 11) 口腔に症状を呈する全身疾患を説明する。(7.5%)
- 12) 顎関節疾患を説明する。(7.5%)
- 13) 抜歯・小手術について説明する。(15%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：
講義を行う
- 2) 能動的方法：
講義中に学生を指名して回答させる
- 3) 媒体：
教科書、スライドを用いて行う

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：プレ・ポストテスト
- 2) 総括的評価：筆記試験（100%）

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
第1回～第15回：教科書を読んでおく（10分）
- 2) 事後学修
第1回～第15回：教科書、配布資料を再確認する。（15分）
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第1回～第15回：プレ・ポストテストで確認する。

7. 教科書

一般社団法人全国歯科衛生 士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学	医歯薬出版
---------------------------	--------------------------	-------

8. 参考図書

全国私立歯大・歯学部付病院 看護部長会 編	歯科衛生士のための看護学大意 第3版	医歯薬出版
--------------------------	-----------------------	-------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	4/14	月	1	口腔外科概論 ・口腔外科学の歴史的背景・役割。 ・口腔外科における歯科衛生士の役割について説明する。	講義	14階教室	片倉
2	4/21	月	1	消毒と滅菌 ・歯科器材で用いられる消毒法、滅菌法を列挙する。 ・手指、手術野の滅菌と消毒について説明する。 ・院内感染防止について説明する。	講義	14階教室	笠原
3	4/28	月	1	口腔・頭蓋・顎顔面領域の先天異常・発育異常 ・口腔・頭蓋・顎顔面領域に徴候を示す主な先天異常、症候群について説明する。 ・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）について説明する。 ・先天異常・発育異常に関する治療法について説明する。	講義	14階教室	笠原
4	5/12	月	1	口腔顎顔面領域の損傷 ・口腔・顔面の損傷の原因を列挙する。 ・歯の外傷を分類する。 ・骨折の種類と特徴について説明する。 ・口腔・顔面の損傷に関する治療法について説明する。	講義	14階教室	笠原
5	5/19	月	1	口腔顎顔面領域の炎症 ・口腔領域の炎症の原因を列挙する。 ・口腔領域の炎症を分類する。 ・口腔領域の炎症の特徴について説明する。 ・口腔領域の炎症に関する治療法について説明する。	講義	14階教室	菅原

6	5/26	月	1	唾液腺疾患 ・唾液腺の解剖と機能について説明する。 ・口腔乾燥症の要因と予防について説明する。 ・唾液腺疾患について説明する。 ・唾液腺腫瘍について説明する。	講義	14階教室	菅原
7	6/2	月	1	嚢胞性疾患 ・口腔領域の嚢胞の定義を述べる。 ・口腔領域の嚢胞を分類する。 ・顎骨内に発生する嚢胞について説明する。 ・軟組織に発生する嚢胞について説明する。	講義	14階教室	加藤
8	6/9	月	1	口腔粘膜疾患 ・口腔粘膜疾患を分類する。 ・口腔粘膜疾患の診断と治療法について説明する。 ・口腔潜在的悪性疾患について説明する。	講義	14階教室	小谷地
9	6/16	月	1	腫瘍 ・歯源性腫瘍について説明する。 ・非歯源性腫瘍について説明する。 ・良性腫瘍の診断と治療について説明する。 ・悪性腫瘍について説明する。 ・悪性腫瘍の診断と治療について説明する。	講義	14階教室	小山
10	6/23	月	1	顎関節疾患 ・顎関節の解剖と機能について説明する。 ・顎関節症の病態と症状について説明する。	講義	14階教室	山本

11	6/30	月	1	<u>神経疾患</u> ・口腔・顎・顔面領域の痛みの生理について説明する。 ・三叉神経痛、舌咽神経痛について説明する。 ・顔面神経麻痺について説明する。	講義	14階教室	西山
12	7/7	月	1	<u>全身と口腔疾患</u> ・口腔に症状を呈する感染症について説明する。 ・口腔に症状を呈するアレルギー性疾患について説明する。 ・口腔に症状を呈する薬物の副作用について説明する。 ・口腔に症状を呈する代謝異常について説明する。 ・口腔に症状を呈するビタミン欠乏症について説明する。	講義	14階教室	小谷地
13	7/14	月	1	<u>手術と器具</u> ・拔牙・小手術の器具を列挙する。 ・拔牙・小手術の実際について具体的に述べる。	講義	14階教室	岩本
14	9/1	月	1	<u>血液疾患</u> ・血液疾患について説明する。 ・貧血について説明する。 ・出血性素因について説明する。 ・白血病について説明する。	講義	14階教室	西山
15	9/8	月	1	<u>口腔手術学</u> ・拔牙・小手術の介助について具体的に述べる。 ・拔牙・小手術の適応症について説明する。	講義	14階教室	笠原

科 目 名	口腔インプラント学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※佐々木穂高		
ナンバリング	B0422-2A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を 活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

口腔インプラント学は多領域連携型の包括的学問であり、口腔インプラント治療と今まで学んできた歯科医学の基本との結びつきを理解する必要がある。インプラントを生体に植立することは、天然歯には存在しない異物と生体との新しい組織界面（上皮界面、結合組織界面、骨界面）を形成する今までの歯科医療にはなかった新しい概念からなる治療方法である。インプラント治療による機能回復後の口腔衛生の向上・維持を達成するために基礎的知識から外科学から補綴学の知識を必要とする臨床過程を学ぶことは、増加し続ける高齢インプラント治療患者の口腔健康の増進を可能とする歯科衛生士の育成へと繋がる。本講義では、口腔インプラント治療とその他の系統科目の知識を結びつける能力を身につけることで、本学のディプロマ・ポリシーを達成することを目的とする。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○	○	○				

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科医学の基礎知識を整理し、歯科衛生士として必要な系統科目間の横のつながりを理解するために、統合型学習としての口腔インプラント学の基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 口腔インプラント治療概論を説明する。(5%)
- 2) 口腔インプラント治療に必要なコミュニケーションスキルを列挙する。(10%)
- 3) 病理学からみた口腔インプラント治療を説明する。(5%)
- 4) 解剖学からみた口腔インプラント治療を説明する。(5%)
- 5) 材料学からみた口腔インプラント治療を説明する。(5%)
- 6) 口腔インプラント治療に必要な診査・検査を列挙する。(5%)
- 7) 口腔インプラント治療の治療計画を説明する。(5%)
- 8) 口腔インプラント治療と従来の治療法の違いを説明する。(10%)

- 9) 口腔インプラント治療の利点・欠点を列挙する。(10%)
- 10) 口腔インプラント外科手術に必要な基礎的知識を説明する。(5%)
- 11) 口腔インプラント補綴治療に必要な基礎的知識を説明する。(5%)
- 12) 歯周病学からみた口腔インプラント治療を説明する。(5%)
- 13) 口腔インプラント治療におけるメンテナンスについて説明する。(10%)
- 14) 口腔インプラント治療のトラブルについて説明する。(5%)
- 15) 口腔インプラント治療に必要な器具・器材の管理を説明する。(5%)
- 16) 口腔インプラント治療に必要な環境整備を説明する。(5%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：
講義
- 2) 能動的方法：
ブレ・ポストテスト、学生指名によるディスカッション、
- 3) 媒体：
教科書、スライド（動画含む）、講義資料

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
各回の講義開始時と終了時にプレテスト・ポストテストを行う。
- 2) 総括的評価：
定期試験にて講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(100%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
第1～8回：過去に学修した関連系統科目を復習するとともに、講義内容に該当する教科書の各章を読んでおく。(10 分)
- 2) 事後学修
第1～8回：当日の講義資料から、重要事項を再確認する。(10 分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
第各講義のブレ・ポストテストにて評価する。

6. 教科書

松浦正朗、矢島安朝 編	歯科衛生士が知っておきたい よくわかる口腔インプラント	医歯薬出版社
-------------	--------------------------------	--------

7. 参考図書

一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学	医歯薬出版社
-----------------------	-----------------	--------

8. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

9. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	6/12	木	2	1) 腔インプラント治療概論を説明する。 2) 口腔インプラント治療に必要なコミュニケーションスキルを列挙する。	講義	14 階 教 室	佐々木
2	6/19	木	2	3) 病理学からみた口腔インプラント治療を説明する。 4) 解剖学からみた口腔インプラント治療を説明する。 5) 材料学からみた口腔インプラント治療を説明する。	講義	14 階 教 室	佐々木
3	6/26	木	2	6) 口腔インプラント治療に必要な診査・検査を列挙する。 7) 口腔インプラント治療の治療計画を説明する。 8) 口腔インプラント治療と従来の治療法の違いを説明する。 9) 口腔インプラント治療の利点・欠点を列挙する。	講義	14 階 教 室	佐々木
4	7/3	木	2	10) 口腔インプラント外科手術に必要な基礎的知識を説明する。	講義	14 階 教 室	佐々木
5	7/10	木	2	11) 口腔インプラント補綴治療に必要な基礎的知識を説明する。	講義	14 階 教 室	佐々木
6	7/17	水	3	12) 歯周病学からみた口腔インプラント治療を説明する。 13) 口腔インプラント治療におけるメンテナンスについて説明する。	講義	14 階 教 室	佐々木
7	9/3	水	4	14) 口腔インプラント治療のトラブルについて説明する。	講義	14 階 教 室	佐々木
8	9/4	木	2	15) 口腔インプラント治療に必要な器具・器材の管理を説明する。 16) 口腔インプラント治療に必要な環境整備を説明する。	講義	14 階 教 室	佐々木

科 目 名	全身管理学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	1) 歯科麻酔学 ※松浦信幸 2) スポーツ歯学 ※中島一憲、※武田友孝 3) 臨床検査学 ※松坂賢一、※國分克寿、※中島啓、※明石良彦、※山本圭		
ナンバリング	B0506-2A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	1) 歯科麻酔学 2) スポーツ歯学 歯科医師として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。 3) 臨床検査学 歯科医師として実務経験がある教員が、患者の病状を客観的に把握するために臨床検査の目的、検査項目とその意義について、講義を行う。		

1. 教科の特徴

1) 歯科麻酔学

超高齢社会のわが国では、歯科を訪れる患者が様々な医科疾患を合併している場合が少なくないため、医療事故防止のためには歯科治療に際して患者の全身的な管理が必要である。とくに高齢者・有病者・障害者に対する歯科治療時の全身管理は極めて重要である。したがって、この教科内容を十分に理解するためには、基礎医学・歯科医学ならびに臨床医学・歯科医学全般にわたる統合的な知識のもとに、論理的思考に基づく問題発見・解決能力が要求される。

全身管理学の学修を通じて、多様な患者に対して安全で快適な全人的歯科医療を高い倫理観のもとに提供するための人間性・協調性にあふれる知識と態度を身につけるとともに、常に医療人として自主的な学修・研修を継続し、向上しようとする習慣を形成する。

2) スポーツ歯学

スポーツ歯学は、従来の歯科医療にスポーツの知識、健康の維持増進を加えた総合歯科医学である。21 世紀において、スポーツ医学同様国民のスポーツ、健康を支える一分野になるものと思われる。スポーツ歯学は、フィールドにおける活動にも重きを置くものである。(ディプロマポリシー：1、2、3)

3) 臨床検査学

臨床検査はヒトの身体内で起こっている現象を客観的に捉えるための学問であり、健康なのか健康ではないのか、健康ではない場合にはどこが悪いのか、さらには治療を受けている患者の治療は効果があるのか、そして疾患の予後判定などに用いられる。本教科は他の臨床科目とも密接に関連し、医療、介護の総合的な確保が地域包括ケアシステムにおいて推進される中で、

専門職として多職種と協働して歯科保健医療が提供できる人材になるために必要な知識となるものである。(ディプロマ・ポリシー3)

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（〇を付してください。）

1) 歯科麻酔学

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○	○			○	○	○

2) スポーツ歯学

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
		○		○	○		○

3) 臨床検査学

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○		○	○		○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

1) 歯科麻酔学

安全で快適な歯科医療を行うために、必要な局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔、および患者管理についての基本的知識を修得する。

2) スポーツ歯学

従来の歯科医療に、スポーツ医学の知識を加えた総合的健康歯科医学における歯科衛生士の役割を理解するために必要な基礎的知識を修得する。

3) 臨床検査学

患者の病状を客観的に把握できるようになるために、臨床検査の基礎的知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

1) 歯科麻酔学

- （1）全身状態の評価について説明する。（25%）
- （2）局所麻酔について説明する。（25%）
- （3）精神鎮静法について説明する。（15%）
- （4）全身麻酔について説明する。（10%）
- （5）緊急時の対応について説明する。（25%）

2) スポーツ歯学

- （1）スポーツ歯科における歯科衛生士の役割を説明する。（20%）
- （2）マウスガードの製作に必要な診査を説明する。（10%）

- (3) マウスガードの目的と意義を説明する。(10%)
- (4) マウスガードの種類と特徴を説明する。(10%)
- (5) マウスガードの使用法と管理法を説明する。(10%)
- (6) 外傷歯への臨床的対応を説明する。(10%)
- (7) 閉塞性睡眠時無呼吸の病態を説明する。(5%)
- (8) 閉塞性睡眠時無呼吸の治療法を説明する。(5%)
- (9) 睡眠時ブラキシズムの病態を説明する。(5%)
- (10) 睡眠時ブラキシズムの治療法を説明する。(5%)
- (11) 顎関節症の病態を説明する。(5%)
- (12) 顎関節症の治療法を説明する。(5%)

3) 臨床検査学

- (1) 臨床検査の種類と判定について説明する。(5%)
- (2) 生理機能検査について説明する。(20%)
- (3) 血液学的検査について説明する。(20%)
- (4) 感染症の検査について説明する。(10%)
- (5) 肝機能の検査について説明する。(5%)
- (6) 腎機能の検査について説明する。(5%)
- (7) 糖尿病の検査について説明する。(5%)
- (8) 免疫・血清学的検査について説明する。(15%)
- (9) 病理学的検査について説明する。(5%)
- (10) 口腔領域の臨床検査について説明する。(10%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

1) 歯科麻酔学

- (1) 受動的方法 : 講義
- (2) 能動的方法 : ディスカッション、プレテスト・ポストテスト
- (3) 媒体 : 教科書、講義資料

2) スポーツ歯学

- (1) 受動的方法 : 講義
- (2) 能動的方法 : プレテスト、ポストテスト
- (3) 媒体 : 教科書、スライド、プリント、ビデオ

3) 臨床検査学

- (1) 受動的方法 : 板書を中心とした講義
- (2) 能動的方法 : ディスカッション、プレテスト、ポストテスト
- (3) 媒体 : スライド、プリント

5. 評価 (EV : Evaluation)

1) 歯科麻酔学

- (1) 形成的評価 :
各回の講義開始時と終了時にプレテスト・ポストテストを実施する。
- (2) 総括的評価 : 定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(90%)
各回の授業参加への積極的な態度を、ディスカッションを通じて評価する。(10%)

2) スポーツ歯学

- (1) 形成的評価 : 講義開始時と終了時にプレテスト・ポストテストを行う。
- (2) 総括的評価 : 定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。(100%)

3) 臨床検査学

- (1) 形成的評価 : 各回の授業における重要ポイントを把握するため、学生自身が自己の理解度を把握するために行う。次回授業開始時にフィードバックを行う。
- (2) 総括的評価 :
① 定期試験 (90~100%)
講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。
② 平常点評価 (0~10%) 日常的な授業中の態度、質問事項に対する回答状況、授業の出席状況等を評価する。

6. 事前学修・事後学修

1) 歯科麻酔学

- (1) 事前学修
第1~4回 : 事前に配信した講義資料を読んでおく。(10分)
- (2) 事後学修
第1~4回 : 講義資料の内容について教科書で確認する。(15分)
- (3) 事前学修・事後学修の評価
事前学習 第1~4回 : 講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学習 第1~4回 : 次回講義の開始時に、事前学習のプレテストとともにポストテストを実施する。

2) スポーツ歯学

- (1) 事前学修
下記の該当部分に目を通しておく。(15~20分)。
外傷予防
日本スポーツ歯科医学会「良質なマウスガードの製作・提供に向けて」
<https://kokuhoken.net/jasd/global/mouthguard.shtml>
外傷治療

日本外傷歯学会「歯の外傷治療のガイドライン」

<https://www.ja-dt.org/file/guidline.pdf>

閉塞性睡眠時無呼吸

日本睡眠歯科学会「閉塞性睡眠時無呼吸に対する診療ガイドライン」

https://jadsm.jp/iryo/guideline_pdf/guideline_2020.pdf

睡眠時ブラキシズム

日本補綴歯科学会「ブラキシズムの診療ガイドライン」

https://www.hotetsu.com/files/files_512.pdf

顎関節症

日本顎関節学会「診療ガイドライン」

<https://kokuhoken.net/jstmj/publication/guideline.html>

(2) 事後学修

教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする（15分）

(3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。

事後学修：講義当日の終了時にポストテストを行う。

3) 臨床検査学

(1) 事前学修

配布資料を確認し、講義内容について確認しておく。（5～10分）

(2) 事後学修

配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。（10～15分）

(3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。

事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。

2) スポーツ歯学

上野俊明、武田友孝、安井利一ら	要説 スポーツ歯科医学（第2版）	医学情報社
武田友孝編著	最新カスタムメイドタイプマウスガードのつくり方	医歯薬出版社

3) 臨床検査学

松坂 賢一 編著	歯学生・歯科医療従事者のための臨床検査学	わかば出版
一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 野村武史・升井一朗・高阪利美・畠中能子 編集	歯科衛生学シリーズ 臨床検査	医歯薬出版
医歯薬出版 編	歯科衛生士書き込み式学習ノート③ 臨床科目編 上 2025年度 1編 臨床歯科総論 1章 臨床検査	医歯薬出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

7. 教科書

1) 歯科麻酔学 全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版	医歯薬出版
2) スポーツ歯学	特になし	
3) 臨床検査学	特になし	

8. 参考図書

1) 歯科麻酔学

特になし		
------	--	--

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	6/9	月	2	全身状態の評価 1) ストレッサー・生体応答・予備力 2) バイタルサイン 3) 生体モニタ	講義	14階教室	松浦
2	6/16	月	2	局所麻酔 1) 局所麻酔薬 2) 血管収縮薬 3) 局所麻酔法 4) 合併症	講義	14階教室	松浦
3	6/23	月	2	精神鎮静法・全身麻酔 1) 吸入鎮静法 2) 静脈内鎮静法 3) 全身麻酔概論	講義	14階教室	松浦
4	6/30	月	2	緊急時の対応 1) 血管迷走神経反射（神経性ショック） 2) 過換気症候群 3) アナフィラキシーショック 4) 医科疾患の増悪 5) その他の全身偶発症	講義	14階教室	松浦
5	7/10	木	3	1) スポーツ歯科における歯科衛生士の役割を説明する。 2) マウスガードの製作に必要な審査を説明する。 3) マウスガードの目的と意義を説明する。 4) マウスガードの種類と特徴を説明する。 5) マウスガードの使用法と管理法を説明する。 6) 外傷歯への臨床的対応を説明する。 7) 閉塞性睡眠時無呼吸の病態を説明する。 8) 閉塞性睡眠時無呼吸の治療法を説明する。	講義	14階教室	中島 武田

				9) 睡眠時ブラキシズムの病態を説明する。 10) 睡眠時ブラキシズムの治療法を説明する。 11) 顎関節症の病態を説明する。 12) 顎関節症の治療法を説明する。			
6	7/17	木	3	臨床検査の種類と判定 生理機能検査 バイタルサイン、心機能検査、 肺機能検査 口腔領域の臨床検査 口臭の検査、味覚の検査	講義	14階教室	松坂 明石
7	9/3	水	3	血液学的検査 赤血球の検査（貧血の検査）、 白血球の検査、出血・凝固系検査 感染症の検査	講義	14階教室	明石
8	9/4	木	3	肝機能の検査 腎機能の検査 糖尿病の検査 免疫・血清学的検査 アレルギー検査、自己免疫疾患の検査、 輸血に関する検査 病理学的検査（細胞診、組織診）	講義	14階教室	明石

科 目 名	実習Ⅰ（歯科予防処置）	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※多田美穂子、※永井由美子、※杉戸博記、※岩澤菜々恵		
ナンバリング	B0508-2A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師、歯科衛生士として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した実習を行っている。		

1. 教科の特徴

健康づくりの観点から、口腔の健康が全身の健康につながるという社会の認識の高まりにより、問題が生じてからの対応ではなく、予防を心がけて行動することの大切さが広まっている。

実習Ⅰでは対象者の歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために、歯科疾患予防論を受講の上、十分な技能を身につけて、実践する専門的処置を学ぶ教科である。

実習の進行については、各自に配布する実習帳を応用し、自身の進行状況を把握しながら、事前事後学修を元に、予習復習を行い実習を進めていく。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（〇を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
	○		○	○	○	○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯周疾患とう蝕の予防処置を行うために、技能および態度を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 術部に応じたポジションで処置を実施する。(10%)
- 2) 歯周ポケット測定を実施する。(10%)
- 3) 種スケーラーを操作する。(20%)
- 4) 面研磨を実施する。(10%)
- 5) 歯周ポケット洗浄、消毒に使用する器具を操作する。(10%)
- 6) スケーラーをシャープニングする。(10%)
- 7) フッ化物局所応用法の綿球塗布法を実施する。(5%)
- 8) フッ化物局所応用法のトレイ法を実施する。(5%)
- 9) レジン系材料を使用した小窩裂溝填塞法を実施する。(3%)
- 10) セメント系材料を使用した小窩裂溝填塞法を実施する。(2%)
- 11) 個人にあったう蝕予防プログラムを作成する。(5%)
- 12) 患者、術者へ配慮する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：
講義、示説
- 2) 能動的方法：
シミュレーション（マネキン）、ロールプレイ、相互実習、小テスト
- 3) 媒体：
教科書、参考図書、PowerPoint、配布資料（プリント）、実習器具・器材
各自の歯科疾患予防論、実習Ⅰの授業ノート

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
小テスト、実習帳の集計結果、レポート課題、フィードバックの実施
- 2) 総括的評価：
・顎模型を用いたスケーリング実技試験（60%）
・平常点（40%）：形成的評価得点（25%）、実習態度、提出物の期限など（15%）

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

第1～30回：（各15分）

前回の実習内容を復習し、相互実習に臨むこと。歯科疾患予防論で配布されたプリントや講義ノートと教科書を確認する。

2) 事後学修

第1～30回：（各15～20分）

- ・実習内容を復習し、ポストテストの内容を再確認する。
- ・オフィスアワーを活用し実技で不足している点を補う。

3) 事前学修・事後学修の評価

第1～30回：実習中にディスカッションする。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版	医歯薬出版
--------------------	-------------------------------------	-------

8. 参考図書

E・M ウィルキンス 著／遠藤圭子、中垣晴男、西 真紀子、眞木吉信、松井恭平、山根 瞳、若林則幸 監訳	ウィルキンス 歯科衛生士の臨床原著 11 版	医歯薬出版
荒川浩久、尾崎哲則、神原正樹、三宅達郎 編著	歯科衛生士テキスト 口腔衛生学第 3 版 一口腔保健統計を含むー	学建書院
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯周病学（第 2 版）	医歯薬出版
沼部幸博、齋藤 淳、梅田 誠	歯科衛生士講座 歯周病学（第 5 版）	永末書店
一般財団法人 日本口腔衛生学会 フッ化物応用委員会 編	フッ化物応用の化学	一般財団法人 口腔保健協会

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目（SB0s など）	方略 (LS)	場 所	担当者
1 2	4/11	金	1 2 / 3 4	示説（講義） 偶発事故の予防と対策 スケーリング実施時の感染予防 軟組織の損傷時の対処法 マネキン実習 プロービング操作 スケーリング操作 (超音波スケーラー) 歯面研磨操作 (コントラアングルハンドピース)	講義 示説 シミ ュレ ーシ ョン 実習	14 階 実 験 室	永井 杉戸 岩澤
3 4	4/18	金	1 2 / 3 4	SB0 s 1) 2) 3) 4) 5) 12) 相互実習 プロービング操作 スケーリング操作 (超音波スケーラー) 歯面研磨操作 (コントラアングルハンドピース)	示説 相互 実習	西 棟 5 階 実 習 室	永井 杉戸 岩澤
5 6	4/25	金	1 2 / 3 4	SB0 s 1) 2) 3) 4) 5) マネキン実習 プロービング操作 スケーリング操作 (シクルタイプスケーラー) 歯面研磨操作 (コントラアングルハンドピース)	示説 シミ ュレ ーシ ョン 実習	14 階 実 験 室	永井 杉戸 岩澤
7 8	5/9	金	1 2 / 3 4	SB0 s 1) 2) 3) 4) 5) 12) 相互実習 プロービング操作 スケーリング操作 (シクルタイプスケーラー) 歯面研磨操作 (コントラアングルハンドピース)	示説 相互 実習	西 棟 5 階 実 習 室	永井 杉戸 岩澤

9 10	5/16	金	1 2 / 3 4	SB0 s 1) 2) 3) 4) 5) マネキン実習 プロービング操作 スケーリング操作 (シックルタイプスケーラー) 歯面研磨操作 (コントラアングルハンドピース)	示説 シミ ュレ ーシ ョン 実習	14 階 実 験 室	永井 杉戸 岩澤
11 12	5/23	金	1 2 / 3 4	SB0 s 1) 2) 3) 4) 5) 12) 相互実習 プロービング操作 スケーリング操作 (エアスケーラー) (シックルタイプスケーラー) 歯面研磨操作 (コントラアングルハンドピース)	示説 相互 実習	西 棟 5 階 実 習 室	永井 岩澤
13 14	5/30	金	1 2 / 3 4	SB0 s 1) 2) 3) 4) 5) 教科書 P219 洗浄、消毒 マネキン実習 プロービング操作 スケーリング操作 (シックルタイプスケーラー) (グレーシータイプキュレットスケーラー)	示説 シミ ュレ ーシ ョン 実習	14 階 実 験 室	永井 杉戸 岩澤
15 16	6/6	金	1 2 / 3 4	SB0 s 1) 2) 3) 4) 6) 12) 相互実習 プロービング操作 スケーリング操作 (シックルタイプスケーラー) (グレーシータイプキュレットスケーラー) 洗浄、消毒	示説 相互 実習	西 棟 5 階 実 習 室	永井 杉戸 岩澤
17 18	6/13	金	1 2 / 3 4	SB0 s 1) 2) 3) 4) 6) 歯周病学P218 ディブライメント操作 マネキン実習 スケーリング操作 (シックルタイプスケーラー) (グレーシータイプキュレットスケーラー) 洗浄、消毒 ディブライメント操作 (超音波スケーラー)	示説 マ ネ キン 実習	14 階 実 験 室	杉戸 永井 岩澤

19 20	6/20	金	1 2 / 3 4	SB0 s 1) 2) 3) 4) 6) 歯周病学P230 エアブレーション示説 マネキン実習 プロービング操作 スケーリング操作 (シックルタイプスケーラー) (グレーシータイプキュレットスケーラー) 洗浄、消毒	示説 シミ ュレ ーシ ョン 実習	西 棟 5 階 実 習 室	杉戸 永井 岩澤
21 22	6/27	金	1 2 / 3 4	SB0 s 1) 2) 3) 4) 5) 6) 12) ディブライメント操作 相互実習 プロービング操作 スケーリング操作 (グレーシータイプキュレットスケーラー) エアブレーション 洗浄・貼薬	示説 相互 実習	西 棟 5 階 実 習 室	永井 杉戸 岩澤
23 24	7/4	金	1 2 / 3 4	SB0 s 7)～10) P233～241 258～264 フッ化物の歯面塗布法(綿球塗布法、トレ ー法)を実施する。 小窩裂溝填塞法(レジン系填塞材、セメン ト系填塞材)を実施する。 マネキン実習	示説 実習	14 階 実 験 室	多田 杉戸 岩澤
25 26	7/11	金	1 2 / 3 4	SB0 s 9) 12) 相互実習 P258～264 レジン系材料を使用して、小窩裂溝 填 塞 法を実施する。	示説 相互 実習	西 棟 5 階 実 習 室	多田 永井 古澤 岩澤
27 28	7/18	金	1 2 / 3 4	SB0 s 7) 8) 12) 相互実習 P233～241 フッ化物局所応用を実施する。 ①トレー法(上顎) 溶液タイプ ②綿球塗布法(下顎) フォームタイプ	示説 相互 実習	西 棟 5 階 実 習 室	多田 永井 岩澤

29	9/5	金	1	SB0 s 11)	演習	14	多田
30			2	う 蝕 予 防 プ ロ グ ラ ム を 作 成 す る 。	実 習	階	
			/			教	
				SB0 s 1) 2) 3) 4) 5) 6)		室	永井
			3	実 習 帳 の 提 出		/	杉戸
			4	実 技 模 擬 試 験		実	岩澤
				*AB 班 3.4 限 で 交 代 し て 実 習 す る 。		験	
						室	

科 目 名	実習Ⅱ（歯科診療補助論）	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※多田美穂子、※有友たかね、※吉田隆、※古澤成博、※中田悠、 ※エーサン・ビシヤール		
ナンバリング	B0510-2A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師、歯科衛生士として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した実習を行っている。		

1. 教科の特徴

歯科衛生士の三大業務のひとつである歯科診療補助は、歯科医師の指示のもとに歯科衛生士が行う相対的歯科医行為である。臨床歯科医学のさまざまな治療や処置において的確なアシスタントワークを行うために、歯科衛生士として必要な態度・技能を修得する科目である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
	○		○	○	○	○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科診療の補助を実施するために、治療の流れ、必要な器材の準備、取り扱いおよび診療における補助動作、さらに患者への対応の基本的技能・態度を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 歯科用ユニットの取り扱いを実施する。(5%)
- 2) 医療安全マニュアルを順守した行動をとる。(8%)
- 3) 感染予防マニュアルを順守した行動をとる。(8%)
- 4) 口腔内検査を実施する。(5%)
- 5) 基本的なバキュームテクニックを実施する。(5%)
- 6) フォーハンデッドデンティストリーによる補助業務を実施する。(5%)
- 7) アルジネート印象材による概形印象採得を実施する。(5%)
- 8) 硬石膏による模型を作製する。(2%)
- 9) 口腔外科治療時のトレーセッティングを実施する。(5%)
- 10) 全身管理のためのバイタルサインの測定を実施する。(3%)
- 11) 保存修復治療時のトレーセッティングを実施する。(5%)
- 12) 歯科補綴治療時のトレーセッティングを実施する。(5%)
- 13) 歯内療法治療時のトレーセッティングを実施する。(5%)

- 14) 一時救命処置（BLS）をマネキン実習で実施する。(3%)
- 15) プロビジュアルレストレーションの製作ができる。(5%)
- 16) ラバーダム防湿法を実施する。(5%)
- 17) 歯科矯正治療時のトレーセッティングを実施する。(5%)
- 18) 歯科放射線撮影時の位置づけを実施する。(3%)
- 19) 画像検査（パノラマ撮影、デンタル撮影）の読み取りを実施する。(3%)
- 20) 診療の流れを考慮し、患者、術者へ配慮する（10%）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法： 講義
- 2) 能動的方法： ポストテスト、相互実習、シミュレーション実習、ディスカッション
- 3) 媒体： 教科書、参考図書、VTR、PowerPoint、配布資料（プリント）

5. 評価（EV：Evaluation）

1) 形成的評価：

実習後にフォームを使用して、相互実習の態度、実技に関する自己評価、他者評価を実施し、学生相互でフィードバックを行う。

ポストテストを実施し、次週の実習前講義でディスカッションによるフィードバックを行う。

自己評価、他者評価の記入内容による理解度、フィードバック時のディスカッションへの積極的参加態度を平常点として評価する。

2) 総括的評価：

シミュレーションテスト（40%）、実技試験（40%）、平常点（20%）

6. 事前学修・事後学修

1) 事前学修

第1～30回：各回の実習内容項目に記載してある教科書ページと、配布プリントを読んで実習に臨むこと。(30分)

2) 事後学修

第1～30回：実習内容を振り返り、重要なポイントを配布プリントや教科書で確認する。また、実習中にフィードバック受けた内容やポストテストを再確認する。

3) 事前学修・事後学修の評価

第2～30回：講義開始時に前回の実習内容を質問し、理解度を確認する。

7. 教科書

一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論	医歯薬出版
一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科機器	医歯薬出版

8. 参考図書

古澤成博 齋藤隆史 菅野亜紀 ほか	歯科衛生士講座 保存修復学・歯内療法学	永末書店
沼部幸博 齋藤淳 梅田 誠 編集	歯科衛生士講座 歯周病学 第5版	永末書店
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科 ・歯科麻酔	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 咀嚼障害・咬合異常 1 歯科補綴	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 咀嚼障害・咬合異常 2 歯科矯正	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 小児歯科	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科放射線	医歯薬出版
有地榮一郎、笹野高嗣、馬嶋秀行、湯浅賢治、代居 敬 監修	歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学第2版	学建書院
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科材料	医歯薬出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時まで

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1 2	4/8	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	SB0s : 1) 2) 3) <u>歯科診療補助論 P18～56</u> <u>歯科機器 P6～25</u> 相互実習オリエンテーション ・手指消毒を手順に沿って実施する。 ・スタンダードプリコーションズに沿った PPE を整える。 ・基本診査用具を準備する。 ・チェアーユニットの取り扱いを実施する。 ・各種器材の洗浄から滅菌までの工程を説明する。 ・各種滅菌機器の取り扱いを説明する。 ・医療廃棄物の取り扱いを実施する。	講義	14 階 実 験 室 ・ 西 棟 5 階 実 習 室	多田 有友 吉田 古澤 エーサン
3 4	4/15	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	SB0s : 2) ～ 6) <u>歯科診療補助論 P63～77</u> <u>歯周病学 P90～91</u> <u>保存修復・歯内療法 P8～13</u> マネキン実習と相互実習 ・チェアーユニットの準備、片付け ・チェアーユニットにおけるポジショニング (術者、補助者、患者) ・ライティング ・患者誘導の注意点を列挙する。 ・医療面接を実施する。 ・口腔内検査を実施する。 ①視診 ②触診 ③打診 ④動揺度検査 ⑤温度診 フォーハンデッドデンティストリーを実施する。 ・器具の受け渡し ・バキュームテクニック ・スリーウェイシリンジテクニック	講義	14 階 実 験 室	多田 有友 吉田 古澤 エーサン

5 6	4/22	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	SB0 s : 1) 、 2) 、 3) 、 4) 、 20) <u>歯科診療補助論 P50～77</u> <u>歯周病学 P90～91</u> <u>保存修復・歯内療法 P8～13</u> チェアーユニットを使用した相互実習 ・チェアーユニットの取り扱いを実施する。 ・患者誘導を実施する。 ・医療面接を実施する。 ・チェアーユニットの準備、片付けをする。 ・チェアーユニットにおけるポジショニング（術者、補助者、患者）をする。 ・ライティングを正しく実施する。 ・口腔内検査を実施する。 ①視診 ②触診 ③打診 ④動揺度検査 ⑤知覚過敏検査	講義	西棟 5階 実習室	多田 有友 吉田 古澤 エーサン
7 8	5/13	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	SB0 s : 6) 、 8) <u>歯科診療補助論 P69～77 P192～202</u> <u>214～221</u> マネキンを使用した印象採得実習 ・アルジネートによる全顎印象採得を実施する。 ・印象体への上顎硬石膏の注入を実施する。	講義	14階 実験室	多田 有友 吉田 古澤 中田 エーサン
9 10	5/20	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	SB0 s : 1) ～ 7) 、 20) <u>歯科診療補助論 P69～77 P192～202</u> <u>214～221</u> フォーハンドデッドデンティストリーで実施する。 ・器具の受け渡し ・バキュームテクニック ・スリーウェイシリンジテクニック フォーハンドデッドデンティストリーで、チェアーユニットを利用した印象採得実習 ・アルジネートによる上顎印象採得を実施する。 ・スムーズな器具の受け渡しを実施する。	講義	西棟 5階 実習室	多田 有友 吉田 古澤 中田 エーサン

11 12	5/27	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	SB0 s : 1) ～ 8) 、 20) <u>歯科診療補助論 P69～77 P192～202</u> <u>214～221</u> ＝ フォーハンドデッドデンティストリーで、 ・チェアーユニットを利用した印象採得実習 ・アルジネートによる下顎採得を実施する。 ・パラフィンワックスによる咬合採得実施する。 ・印象体への硬石膏の注入を実施する。 ・スムーズな器具の受け渡しを実施する。	講義	西棟 5階 実習室	多田 有友 吉田 古澤 中田 エーサン
13 14	6/3	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	SB0 s : 9) 、 10) <u>歯科診療補助論 P78～81 P153～160</u> <u>歯科口腔外科学・歯科麻酔学</u> <u>P183～201 242～258</u> <u>歯科機器 P50～56 P133～147</u> ・口腔外科治療時のトレーセッティングを実施する。 ・口腔外科治療時に使用する器材の取り扱いを実施する。 ・バイタルサイン（呼吸、脈拍、血圧、体温、SpO ₂ 、意識）の測定をする。		14階 実験室	多田 有友 吉田 古澤 中田 エーサン
15 16	6/10	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	SB0 s : 11) 、 12) <u>歯科診療補助論 P150～161</u> <u>歯科補綴学 P78～92 112～140 159～172</u> <u>歯科機器 P77～84 P112～132</u> ・歯科補綴治療時のトレーセッティング（義歯作製、クラウン・ブリッジ作成時） ・歯科補綴治療時に使用する器材の取り扱いができる。 ・保存修復治療時のトレーセッティング（直接修復、間接修復） ・保存修復治療時に使用する器材の取り扱いができる。（切削・研磨用器具 含）	講義	14階 実験室	クラウン ブリッジ 補綴学講座 関根 多田 有友 吉田 古澤 中田 エーサン

17 18	6/17	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	SB0 s : 13) 、16) ・ <u>歯科診療補助論 P95～101 P131～136</u> ・ <u>歯内療法学 P220～229</u> ・ <u>歯科機器 P92～102</u> ・ 歯内療法治療時のトレー--セッティング (感染根管処置、根管充填) ・ 歯内療法時に使用する器材の取り扱い ができる。 ・ 歯内療法 (トレー--セッティング: ラバ ーダム防湿、綿花の取り扱い、根管充填 剤 (材)、仮封材の取り扱いをフォーハ ンデッドデンティストリーで行う。)	講義	14 階 実 験 室	歯内療法 学講座 岩澤 多田 有友 吉田 古澤 中田 エーサン
19 20	6/24	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	SB0 s : 14) ・ <u>歯科診療補助論 P192～195</u> ・ <u>口腔外科・歯科麻酔 P288～299</u> ・ <u>歯科機器 P58～60</u> ・ マネキン実習で一次救命処置 (BLS) を実 施する。 ・ 意識確認 ・呼吸確認 ・ 気道の確保 ・胸骨圧迫 ・ 人工呼吸 ・AED を使用できる。	講義	西 棟 5 階 実 習 室	麻酔科 齊藤 多田 有友 吉田 古澤 中田 エーサン
21 22	7/1	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	SB0 s : 1) 、2) 、3) 、16) 、20) ・ <u>歯科診療補助論 P95～101</u> ・ <u>歯科機器 P92、93</u> ・ 対象歯にラバーダム防湿を装着する。	講義	西 棟 5 階 実 習 室	有友 多田 吉田 古澤 中田 エーサン
23 24	7/8	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	SB0 s : 17) 、18) 、19) ・ <u>歯科診療補助論 P71～73 P173～182</u> ・ <u>歯科機器 P90～93 P150～166</u> ・ <u>歯科矯正学 P164～170 158～160</u> ・ <u>歯科放射線学 P19～39 158～160</u> ・ 矯正歯科治療時のトレーセッティング ・ 矯正歯科治療に使用する器材の受け渡 しをする。(結紮、バンド装着) ・ デンタルフィルムの位置づけが実施す る。 ・ デンタルフィルムのマウントをする。 ・ デンタルフィルムの読み取りができる。	講義	14 階 教 室	矯正歯科 有泉 山下 放射線科 小高 多田 有友 吉田 古澤 中田 エーサン

25 26	7/15	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	SB0 s : 2) 、3) 、15) ・ <u>歯科診療補助論 P144～146</u> ・ <u>歯科補綴 P89～90</u> ・ プロビジョナルレストレーションの製作 をする。 ・ ①レジン冠を使用した場合 ・ ②支台歯形成前の印象体を使用した場合	講義	14 階 実 験 室	クラウン ブリッジ 補綴学講座 関根 多田 有友 吉田 古澤 中田 エーサン
27 28	9/2	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	SB0 s : 2) 、3) 、15) ・ <u>歯科補綴 P89～90 、96～97</u> ・ プロビジョナルレストレーションの製作 をする。 ・ 常温重合レジンを使用した場合	講義	14 階 実 験 室	クラウン ブリッジ 補綴学講座 関根 多田 有友 吉田 古澤 中田 エーサン
29 30	9/9	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	歯科診療補助実習総復習 ・ 歯科治療 (歯内療法、歯科補綴、歯科矯 正、口腔外科) の術式および使用器具、器 材の準備確認 ・ バキュームテクニックの確認 ・ 医療安全、感染予防に関する認識確認	講義	西 棟 5 階 実 習 室	多田 有友 吉田 古澤 中田 エーサン

科 目 名	口腔機能リハビリテーション論	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※石田 瞭、※杉山哲也、※大久保真衣		
ナンバリング	B0511-2A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

摂食嚥下障害は口から食べるという、人の日常生活に必要な不可欠な機能の障害であり、乳幼児から高齢者に至るまで関連し得る。急性期から生活期のいずれでも発症し、特に地域で生活する摂食嚥下障害患者は、歯科医療従事者による対応が妥当と考えられる。

本教科では、歯科衛生士に求められる摂食嚥下リハビリテーションの基本的知識と技能を総合的に修得する。超高齢社会の我が国で地域包括ケアシステムを推進し、多職種協働のもと地域社会の種々の局面に対応しつつ、人々の健康増進、支援ができる能力を育成する。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（〇を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○	○	○	○			

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

摂食嚥下障害に歯科医療従事者として適切に対応するために、摂食嚥下リハビリテーションに関する基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 摂食嚥下機能の健全な発達と老化の過程について説明する。（20％）
- 2) 摂食嚥下障害の概念と主な原因を説明する。（20％）
- 3) 摂食嚥下障害の機能評価に必要な検査および治療計画立案の方法を説明する。（20％）
- 4) 摂食嚥下リハビリテーション手技について説明する。（20％）
- 5) 摂食嚥下障害に関連する栄養療法について説明する。（20％）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：ディスカッション、プレテスト、ポストテスト
- 3) 媒体：教科書、スライド、プリント

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：

各回の講義開始時と終了時にプレテスト、ポストテストを行い、講義中に解説する。（10％）
- 2) 総括的評価：

定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。（90％）ポストテストを評価する（10％）

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修

各回の授業内容の項目について事前配布プリント、参考図書を読み、ポイントをつかんで授業に臨むこと（各10分）。該当ページは、各回の内容欄に記載してある。
- 2) 事後学修

第1～8回：当日の授業内容を再度見直し重要なポイントをリストアップすること（15分）。
- 3) 事前学修・事後学修の評価

事前学習：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学習：前回分の事後学習評価のため、プレテストに前回分の内容を含める。

7. 教科書

公益社団法人日本歯科衛生士会監修	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版	医歯薬出版
------------------	----------------------------	-------

8. 参考図書

才藤栄一・植田耕一郎 監修	摂食嚥下リハビリテーション 第3版	医歯薬出版
向井美恵・山田好秋・井上誠・弘中祥司	新版 歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学	医歯薬出版
井出吉信、山田好秋 監修	CD-ROM 摂食・嚥下のメカニズム解剖・生理編	医歯薬出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目（SBOs など）	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/10	木	3	口腔機能リハビリテーション総論 （教 p.1-55） 1) 摂食嚥下機能の健全な発達と老化の過程 について説明する。	講義	14 階 教室	石田
2	4/17	木	3	摂食嚥下機能の加齢変化 （教 p.56-67,124-149） 1) 摂食嚥下機能の健全な発達と老化の過程 について説明する。	講義	14 階 教室	石田
3	4/24	木	3	摂食嚥下障害とその評価（教 p68-92, 167- 178） 2) 摂食嚥下障害の概念と主な原因を説明する。 3) 摂食嚥下障害の機能評価に必要な検査お よび治療計画立案の方法を説明する。	講義	14 階 教室	石田
4	5/8	木	3	摂食嚥下リハビリテーション（高齢者・間接 訓練）（教 p.202-215） 4) 摂食嚥下リハビリテーション手技につい て説明する。	講義	14 階 教室	石田
5	5/15	木	3	摂食嚥下リハビリテーション（高齢者・直接 訓練）（教 p.194-201,216-226） 4) 摂食嚥下リハビリテーション手技につい て説明する。	講義	14 階 教室	杉山
6	5/22	木	3	摂食嚥下障害の歯科補綴的対応 （教 p. 68-92, 227-242） 4) 摂食嚥下リハビリテーション手技につい て説明する。	講義	14 階 教室	杉山
7	5/29	木	3	摂食嚥下リハビリテーション（小児） （教 p.150-166, 206-210） 4) 摂食嚥下リハビリテーション手技につい て説明する。	講義	14 階 教室	大久保
8	6/5	木	3	栄養療法（教 p.93-107） 5) 摂食嚥下障害に関連する栄養療法につい て説明する。	講義	14 階 教室	大久保

科 目 名	演習Ⅰ（障害者歯科・摂食機能療法）	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※有友たかね、※上島文江、※中田 悠、※大多和由美、※石田瞭、 ※杉山哲也、※大久保真衣		
ナンバリング	B0512-2A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師、歯科衛生士として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、障害者診療および摂食嚥下リハビリテーションにおいて現場に即した実習を行っている。		

1. 教科の特徴

本科目は、在宅歯科衛生管理論、口腔機能リハビリテーション論、スペシャルニーズ歯科学を踏まえ、高齢社会の進展に伴い増加すると思われる摂食機能障害者や障害者に対応するために必要な基本的技能を修得する科目である。本科目で修得する基本的技能は、日々変化する歯科医療に対応するための基盤となる技能である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
		○	○	○		○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

障害者および摂食機能障害者に歯科衛生士として適切に対応するために、障害者歯科診療補助と摂食嚥下リハビリテーションに関する基本的技能や態度を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1）障害者に対する歯科治療時の対応を実践する。（15％）
- 2）障害者の歯科治療中の患者コントロールを実践する。（15％）
- 3）障害患者に対する健康支援と口腔保健管理を実践する。（10％）
- 4）小児期の摂食嚥下機能評価と対応を実践する。（10％）
- 5）摂食嚥下障害の検査を実践する。（10％）
- 6）摂食嚥下障害の間接訓練を実践する。（10％）
- 7）摂食嚥下障害の直接訓練を実践する。（10％）
- 8）摂食嚥下障害者の食生活・食支援を実践する。（10％）
- 9）模擬患者演習において、身体障害や発達障害などの障害の特性に配慮する。（10％）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1）受動的方法：講義、デモンストレーション
- 2）能動的方法：演習、PBL、動画を用いての学習
- 3）媒体：教科書、スライド、プリント、動画

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1）形成的評価：各回の課題内容を評価する提出物の内容を評価する。
適宜ポストテストを行う。
- 2）総括的評価：以下の3項目で評価を行う。
 - ①適宜ポストテストを行う（30％）
 - ②日常的な授業中の態度、課題の提出状況などを評価する（20％）
 - ③課題レポート（提出物期限厳守）（50％）

6. 事前学修・事後学修

1）事前学修

第1,2回：「日本障害者歯科学会教育ツール 移乗」を通読する。（10分）

<https://www.jsdh.jp/resources/manual/tools.html>

第3回：教科書「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版」P169-178に目を通しておく。（10分）

第4回：教科書「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版」P202-215に目を通しておく。（10分）

第5回：教科書「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版」P167-168, 194-201, 216-226に目を通しておく。（10分）

第6回：教科書「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版」P198-201に目を通しておく。（10分）

第7回：教科書「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版」P150-166に目を通しておく。（10分）

第8回：教科書「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版」P206-210に目を通しておく。（10分）

第9, 10回：「よくわかる歯科訪問診療」P51-56を読んでおく。（10分）

第4回目の演習内容が実践できるよう復習しておく。（10分）

第11, 12回：教科書「障害者歯科学」P57-59, 66-72を読んでおく。（15分）

第13回：東京都心障害者口腔保健センターのHPの閲覧を行う。（5分）

絵カード発表のための準備を行う。（10分）

第14回：ちよだボランティアクラブのHPの閲覧を行う。（5分）

<https://www.chiyoda-vc.com/v-club/>

教科書「障害者歯科学」P52-55 を読んでおく。(5 分)

第 15 回：第 1 ～ 1 4 回までの講義資料を見直す。(15 分)

2) 事後学修

第 1 ～ 14 回：講義内容を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(各 10 分)

第 15 回：教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(10 分)

3) 事前学修・事後学修の評価

第 1、2 回：

事前：車椅子操作やガイドヘルプについて答えてもらう。

事後：第 2 回目講義終了時にポストテストを行う。

第 3 ～ 8 回：

事前：評価方法や訓練について答えてもらう。

事後：適宜、講義終了時にポストテストを行う。

第 9、10 回：

事前：摂食指導・訓練前の口腔衛生管理や能動訓練の指導について答えてもらう。

事後：第 10 回講義終了時にポストテストを行う。

第 11、12 回：

事前：行動調整について答えてもらう。

事後：提出された絵カードを見て評価する。

第 13 回：

事前：口腔保健センターについて答えてもらう。

事後：絵カードの発表の様子および他者評価表にて評価を行う。

第 14 回：

事前：講義開始時に、ボランティア、手話に関してディスカッションを行う。

事後：講義終了時に、感想を聞く。

第 15 回：

事前：第 1 ～ 1 4 回までの内容について答えてもらう。

事後：次回講義がないため、行わない。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生士学シリーズ 障害者歯科学	医歯薬出版
公益社団法人日本歯科衛生 士会 監修	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビ リテーション 第 2 版	医歯薬出版
一般社団法人日本老年歯科 医学会編集協力	よくわかる歯科訪問診療	永末書店

8. 参考図書

菊谷武、高橋賢児、戸原 雄、 尾関麻衣子 著	歯科が活躍するミールラウンド&カ ンファレンス	医歯薬出版
迫田 綾子、佐藤 幸浩、川 端 直子、有友たかね ほか 著、迫田 綾子編集	図解 誤嚥を防ぐポジショニングと 食事ケア-食事のはじめからおわりま で 第 2 版	医歯薬出版
有友たかね、十時久子、角田 愛美、村田碧ほか 著、菊谷 武監修	集まれ！訪問歯科衛生士ビギナーズ 在宅口腔衛生管理スタートブック	医歯薬出版
小笠原 正、石井里加子、梶 美奈子、寺田ハルカ編著	あなたの歯科医院に障害のある患者 さんが来院したら？ 歯科衛生士のための障害者歯科入門	医歯薬出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終
了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延
証明書等)を提出すること。

回 数	月日	曜 日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/10	木	4	障害者に対する歯科治療時の対応がで きる。 A 班：患者の誘導 B 班：診療補助の基本動作 (車椅子操作、高齢者体験、ガイドヘ ルプ)	講義 演習	西棟 5 階 実習室 14 階 実験室 教室	有友 上島 中田
2	4/17	木	4	障害者に対する歯科治療時の対応がで きる。 B 班：患者の誘導 A 班：診療補助の基本動作 (車椅子操作、高齢者体験、ガイドヘ ルプ)	講義 演習	西棟 5 階 実習室 14 階 実験室 教室	有友 上島 中田

3	4/24	木	4	摂食嚥下障害の検査ができる 反復唾液嚥下テスト、改訂水飲みテスト、段階的フードテスト、頸部聴診法など	講義 演習	14 階 教室	有友 上島 中田 石田
4	5/8	木	4	摂食嚥下障害者の間接訓練ができる 筋ストレッチ、筋刺激訓練法、嚥下促通訓練、声門閉鎖訓練 など	講義 演習	14 階 教室	有友 上島 中田 石田
5	5/15	木	4	摂食嚥下障害者の直接訓練ができる 味覚刺激嚥下、手と口の協調訓練、一口量の調節、ペーシング訓練、捕食訓練、咀嚼訓練 など	講義 演習	14 階 教室	杉山 有友 上島 中田
6	5/22	木	4	高齢者に対する食事支援や高齢者施設における口腔体操ができる 食器・食具の種類、使用方法、食事介助の位置、食事前の口腔体操など	講義 演習	14 階 教室	有友 上島 中田
7	5/29	木	4	摂食嚥下障害者の食生活・食支援ができる 食物形態の調整、食環境の整備、栄養摂取の方法、食事の介助 など	講義 演習	14 階 教室	大久保 有友 上島 中田
8	6/5	木	4	小児期の摂食嚥下機能評価と対応ができる	講義 演習	14 階 教室	大久保 有友 上島 中田
9	6/12	木	4	障害者に対する健康支援と口腔保健管理ができる A 班：介助者への支援、専門的口腔ケア B 班：集団指導での嚥下体操の実習	講義 演習	西棟 5 階 実習室 14 階 教室	有友 上島 中田
10	6/19	木	4	障害者に対する健康支援と口腔保健管理ができる B 班：介助者への支援、専門的口腔ケア A 班：集団指導での嚥下体操の実習	講義 演習	西棟 5 階 実習室 14 階 教室	有友 上島 中田

11	6/26	木	4	障害者歯科治療中の患者コントロールができる A 班：体動コントロールの実習 B 班：DVD 学習と絵カードの作成	講義 演習	西棟 5 階 実習室 14 階 教室	有友 上島 中田 大多和
12	7/3	木	4	障害者歯科治療中の患者コントロールができる B 班：体動コントロールの実習 A 班：DVD 学習と絵カードの作成	講義 演習	西棟 5 階 実習室 14 階 教室	有友 上島 中田 大多和
13	7/10	木	4	障害者歯科医療の現場を説明できる DVD 学習 絵カードの発表	講義 演習	14 階 実験室	有友 上島 中田 大多和
14	7/17	木	4	障害者に対する歯科治療時の対応ができる ボランティア入門講座（千代田区社会福祉協議会） 手話体験講座	講義 演習	14 階 教室	有友 上島 中田 GS
15	9/4	木	4	総合演習	講義 演習	14 階 教室	有友 上島 中田

科 目 名	在宅歯科衛生管理論	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※石田 瞭、※杉山哲也、※大久保真衣		
ナンバリング	B0513-2A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師、として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

高齢社会において、歯科外来通院が不可能となる高齢患者が増大している。現在は在宅歯科医療が普及しつつあるが、対象者のほぼ全員は有病者である。在宅歯科医療に対し、患者の病態理解、診療手順、医療安全、また要介護高齢者に対する社会保障制度や地域医療連携について、歯科衛生士に求められる基本的知識を修得する。超高齢社会の我が国で地域包括ケアシステムを推進し、多職種協働のもと地域社会の種々の局面に対応しつつ、人々の健康増進、支援ができる能力を育成する。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○	○	○	○			

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

外来通院不可能な要介護者が増加している現状を理解し、在宅歯科医療に関する基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 在宅歯科医療対象者の身体的・心理的特徴を説明する。（10％）
- 2) 在宅歯科医療に関わる社会保障制度について説明する。（10％）
- 3) 在宅歯科医療で使用する機器を説明する。（5％）
- 4) 口腔健康管理について説明する。（20％）
- 5) 在宅歯科医療で用いる検査および治療計画立案の方法を説明する。（10％）
- 6) 在宅歯科医療における診療目標の設定を説明する。（20％）
- 7) 在宅歯科医療における地域医療連携について説明する。（20％）
- 8) 在宅歯科医療における安全管理について説明する。（5％）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：ディスカッション、プレテスト、ポストテスト
- 3) 媒体：教科書、スライド、プリント

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
各回の講義開始時と終了時にプレテスト、ポストテストを行い、講義中に解説する。（10％）
- 2) 総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度を、空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。（90％）、ポストテストを評価する（10％）

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
各回の授業内容の項目について事前配布プリント、参考図書を読み、ポイントをつかんで授業に臨むこと（各10分）。該当ページは、各回の内容欄に記載してある。
- 2) 事後学修
第1～8回： 当日の授業内容を再度見直し、重要なポイントをリストアップすること（各15分）。
- 3) 事前学修・事後学修の評価
事前学習：講義当日の開始時にプレテストで確認する。
事後学習：前回分の事後学習評価のため、プレテストに前回分の内容を含める。

7. 教科書

一般社団法人日本老年歯科 医学会編集協力	よくわかる歯科訪問診療	永末書店
-------------------------	-------------	------

8. 参考図書

森戸光彦編集主幹	老年歯科医学	医歯薬出版
森戸光彦編集主幹	老年歯科医学 第3版	永末書店
羽村 章、安藤文人	高齢者歯科の医療事故防止一適切な対応とは何かー	口腔保健協会
高橋英登編集者代表	まずは行ってみよう！一般開業医のための訪問歯科診療入門<第2版>	医歯薬出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目（SB0s など）	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/10	木	2	在宅歯科医療総論（教 p. 1-11、116-118） 1) 在宅歯科医療対象者の身体的・心理 的特徴を説明する。	講義	14 階 教 室	石田
2	4/17	木	2	在宅歯科医療に関わる社会保障制度 （教p. 27-38） 2) 在宅歯科医療に関わる社会保障制度に ついて説明する。	講義	14 階 教 室	石田
3	4/24	木	2	在宅歯科医療で使用する機器 （教p.76-84） 3) 在宅歯科医療で使用する機器を説 明する。	講義	14 階 教 室	石田
4	5/8	木	2	口腔健康管理（教 p.51-56） 4) 口腔健康管理について説明する。	講義	14 階 教 室	石田
5	5/15	木	2	地域医療連携（教 p.12-26、94-104） 7) 在宅歯科医療における地域医療連携 について説明する。	講義	14 階 教 室	杉山
6	5/22	木	2	在宅歯科医療における安全管理 （教 p.84-94、111-123） 8) 在宅歯科医療における安全管理につ いて説明する。	講義	14 階 教 室	杉山
7	5/29	木	2	在宅歯科医療で用いる検査 （教 p.105-110） 5) 在宅歯科医療で用いる検査および治 療計画立案の方法を説明する。	講義	14 階 教 室	大久保
8	6/5	木	2	在宅歯科医療における診療目標の設定 （教p.39-51） 6) 在宅歯科医療における診療目標の設定 を説明する。	講義	14 階 教 室	大久保

科 目 名	医科疾患患者への歯科衛生	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※野村武史、※菅野亜紀		
ナンバリング	B0514-2B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師、歯科衛生士として実務経験のある教員が、総合病院での勤務経験を活かし、現場に即した医学的問題をもつ患者への歯科的対応とその効果について講義する。		

1. 教科の特徴

高齢社会のわが国では、歯科診療所の受診者の 45%が 65 歳以上の高齢者となり、医科疾患を有する患者が来院する機会が増えている。また、周術期においては、口腔環境の悪化による合併症を予防し、入院期間や致死率を減少できるよう、多職種と連携して口腔健康管理を担うことが求められている。そこでこの教科においては、口腔健康管理を通して疾患の予防ならびに治療の質の向上を図る能力を身につけるために、口腔環境と医科疾患との関連性、医学的問題点を持つ患者への対応とその効用についての知識を学修する。これにより、高齢社会の進展に伴う歯科医療の変化に対応し、専門職として多職種と協働して歯科保健医療を提供するために必要な知識の根幹となるものである。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（〇を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○	○			○	○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

医科疾患を有する患者に対して、安全な口腔健康管理を実践するために必要な基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1）医科疾患と口腔の関連性を説明する。（45%）
- 2）医科疾患への口腔健康管理の方法を説明する。（45%）
- 3）地域包括医療における歯科衛生士の役割を説明する。（5%）
- 4）チーム医療に関わる医療従事者との連携について説明する。（5%）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1）受動的方法：講義
- 2）能動的方法：プレテスト、ポストテスト
- 3）媒体：教科書、スライド、プリント（学習に必要な資料を適宜作成し配布する）

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1）形成的評価：各回の講義開始時と終了時にプレ・ポストテストを行う。
- 2）総括的評価：定期試験は講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。（野村担当授業分 50%・菅野担当授業分 50%とする）

6. 事前学修・事後学修

1）事前学修

- 第 1 回：教科書①194～197 ページを読んでおく。（10 分）
- 第 2 回：教科書①198～203 ページを読んでおく。（10 分）
- 第 3 回：第 2 回のプリントを見直した上で教科書①199～201 ページを読んでおく。（10 分）
- 第 4 回：教科書①204～211 ページを読んでおく。（10 分）
- 教科書②147～155、163～1651 ページを読んでおく。（10 分）
- 第 5 回：第 4 回のプリントを見直した上で教科書①211～222 ページを読んでおく。（10 分）
- 第 6 回：教科書①213～217 ページを読んでおく。（10 分）
- 第 7 回：教科書①82～90 ページを読んでおく。（10 分）
- 教科書②15～19、21～31 ページを読んでおく（10 分）
- 第 8 回：教科書①91～96 ページを読んでおく。（15 分）
- 教科書②205～206 ページを読んでおく。（5 分）
- 第 9 回：教科書①97～106 ページを読んでおく。（10 分）
- 教科書②113～123 ページを読んでおく。（10 分）
- 第 10 回：教科書①107～114 ページを読んでおく。（5 分）
- 教科書②87～110 ページを読んでおく。（15 分）
- 第 11 回：教科書①124～137 ページを読んでおく。（5 分）
- 教科書②129～143 ページを読んでおく。（15 分）
- 第 12 回：教科書①115～123、138～144 ページを読んでおく。（10 分）
- 教科書②19、32～42 ページを読んでおく。（10 分）
- 第 13 回：教科書①145～152 ページを読んでおく。（5 分）
- 教科書②47～66、74～80 ページを読んでおく。（15 分）
- 第 14 回：第 1～6 回の重要ポイントを復習する（30 分）
- 第 15 回：教科書①60～63、72～75、153～162 ページを読んでおく。（15 分）
- 教科書②187～194 ページを読んでおく。（5 分）

2) 事後学修

第1～13・15回：ポストテストで誤った問題は資料を再確認して重要ポイントを整理する。(15分)

第14回：練習問題で誤った問題は資料を再確認して復習する。(30分)

3) 事前学修・事後学修の評価

第1～13・15回：プレテスト、ポストテストで確認する。

第14回は練習問題で確認する。

7. 教科書

①山根源之、野村武史ら編著	歯科衛生士のための口腔内科	医歯薬出版
②全国歯科衛生士教育協議会監修	歯科衛生学シリーズ 臨床検査	医歯薬出版

8. 参考図書

井田和徳、堂前尚親、西田次郎 編	歯科のための内科学 改定第3版	南江堂
水野嘉夫 著	歯科医師が知っておくべき全身疾患 (内科学エッセンス2)	一世出版
藤本篤士、武井典子、片倉朗、大野友久、糸田昌隆、杉山勝、吉江弘正、小林芳友 編著	5 疾病の口腔ケア チーム医療による全身疾患対応型口腔ケアのすすめ	医歯薬出版
山根源之、草間幹夫、久保田英朗編著	口腔内科学	永末書店
Andrew N. Davies Joel B. Epstein 編著 曾我賢彦 監訳	がん口腔支持療法～多職種連携によるがん患者の口腔内管理	永末書店

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

	月日	曜日	時 限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	10/9	木	1	チーム医療概論 ・病院における歯科の役割を説明する。 ・チーム医療における歯科衛生士の役割を説明する。	講義	14階教室	菅野
2	10/16	木	1	周術期口腔機能管理 総論 ・周術期口腔機能管理を説明する。 ・周術期口腔機能管理での歯科衛生士の役割を説明する。	講義	14階教室	菅野
3	10/23	木	1	周術期口腔機能管理 各論1：人工呼吸器関連肺炎(VAP) ・呼吸管理の方法を列挙する。 ・VAPの原因を列挙する。 ・VAPの予防法を説明する。	講義	14階教室	菅野
4	10/30	木	1	周術期口腔機能管理 各論2：悪性腫瘍 ・標準治療と口腔健康管理を説明する。 ・術後の障害と口腔衛生行動の関連を説明する。	講義	14階教室	菅野
5	11/6	木	1	口腔がんの支持療法(サポートケア) ・口腔がんの支持療法を説明する。 ・口腔がん患者の術後の口腔健康管理法を説明する。	講義	14階教室	菅野
6	11/13	木	1	周術期口腔機能管理 各論3：緩和ケア ・緩和ケアを説明する。 ・緩和ケアと口腔健康管理を説明する。	講義	14階教室	菅野
7	11/20	木	1	基礎疾患1 循環器疾患患者の歯科診療 ・循環器疾患を説明する。 ・循環器疾患患者の口腔健康管理を説明する。	講義	14階教室	野村
8	11/27	木	1	基礎疾患2 脳血管疾患患者の歯科診療 ・脳血管疾患・Parkinson病・認知症を説明する。 ・脳血管疾患・Parkinson病・認知症患者の口腔健康管理を説明する。	講義	14階教室	野村

9	12/4	木	1	基礎疾患3 代謝・内分泌疾患の 歯科診療 ・代謝・内分泌疾患を説明する。 ・代謝・内分泌疾患患者の口腔健康管理 を説明する。	講義	14 階 教 室	野村
10	12/11	木	1	基礎疾患4 消化器疾患・泌尿器疾患の 歯科診療 ・消化器疾患・泌尿器疾患を説明する。 ・消化器疾患・泌尿器疾患患者の口腔健 康管理を説明する。	講義	14 階 教 室	野村
11	12/18	木	1	基礎疾患5 アレルギー性疾患・自己免疫 疾患患者の歯科診療 ・アレルギー性疾患・自己免疫疾患 を説明する。 ・アレルギー性疾患・自己免疫疾患患者の 口腔健康管理を説明する。	講義	14 階 教 室	野村
12	1/8	木	1	基礎疾患6 呼吸器疾患・周産期患者の 歯科診療 ・呼吸器疾患・周産期について説明する。 ・呼吸器疾患・周産期患者の口腔健康管理 を説明する。	講義	14 階 教 室	野村
13	1/15	木	1	基礎疾患7 血液疾患患者の歯科診療 ・血液疾患を説明する。 ・血液疾患患者の口腔健康管理を説明する。	講義	14 階 教 室	野村
14	1/22	木	1	前半授業のまとめ（中間テスト） ・第1～6回までの授業における重要ポ イントを説明する。	講義	14 階 教 室	菅野
15	1/29	木	1	基礎疾患8 口腔乾燥をきたす疾患・口 腔心身症・精神疾患患者の歯科診療 ・口腔乾燥をきたす疾患を説明する。 ・口腔心身症・精神疾患を説明する。 ・口腔乾燥症患者の口腔健康管理を説明 する。 ・口腔心身症・精神疾患患者の口腔健康 管理を説明する。	講義	14 階 教 室	野村

科 目 名	専門職間の連携活動論	修得単位数	2
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※鳥山佳則 ※中島純子		
ナンバリング	B0515-2B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	鳥山（歯科医師）は厚生労働省に長年勤務し、衛生行政に精通している。 中島（歯科医師）は総合病院の歯科医師として専門職間の連携に精通している。		

1. 教科の特徴

超高齢者社会の進展に伴う地域包括ケアシステムにおける、病院歯科、在宅歯科医療、要介護高齢者などの歯科医療を理解し、専門多職種との協働による歯科保健医療を提供できる歯科衛生士としての役割を学修する。本教科の学修によって教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域社会の種々な場に対応できる人材を育成する。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
			○	○			○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

高齢者、有病者などの口腔機能低下を理解し、健康長寿に貢献できるようになるために、地域包括医療と専門職間の連携、歯科衛生士の役割について知識を修得する。

3. 行動目標（SBGs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 病院における多職種連携を説明する。（40％）
- 2) 高齢者の虚弱と生活機能の維持・向上の概要を説明する。（15％）
- 3) 地域包括ケアシステムと多職種連携を説明する。（15％）
- 4) 在宅歯科医療と多職種連携を説明する。（10％）
- 5) 多職種連携における歯科衛生士の役割を説明する。（20％）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：ディスカッション
- 3) 媒体：プリント、スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：
なし
- 2) 総括的評価：
筆記試験（100％） 正誤+多肢選択+空欄補充（計 80％）、論述（20％）
各講義から満遍なく出題する。

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
事前配布される資料をもとに、教科書の該当ページで予習する。（15 分）
- 2) 事後学修
教科書、配布資料を再確認し、重要ポイントについて復習する。（15 分）
- 3) 事前学修・事後学修の評価
ブレテスト、ポストテスト

7. 教科書

なし

8. 参考図書

森戸光彦（編集主幹）	歯科衛生士講座 高齢者歯科 学 第4版	永末書店
------------	------------------------	------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SB0s など）	方略（LS）	場所	担当者
1	10/9	木	3	(1)-1 病院における多職種連携 多職種の勤務する病院組織の理解	講義	14階教室	中島
2	10/16	木	3	(2)-1 高齢者の虚弱と生活機能の維持・向上 多職種連携と口腔機能管理 フレイル・オーラルフレイル	講義	14階教室	中島
3	10/23	木	3	(2)-2 高齢者の虚弱と生活機能の維持・向上 現役世代からの健康づくり、生活習慣病 サルコペニア ロコモティブシンドローム	講義	14階教室	中島
4	10/30	木	3	(1)-2 病院における多職種連携 薬剤師の役割	講義	14階教室	鳥山GS
5	11/6	木	3	(1)-3 病院における多職種連携 病院と地域医療の連携① 地域連携室の役割 (3)-1 地域包括ケアシステムと多職種連携	講義	14階教室	鳥山GS
6	11/13	木	3	(1)-4 病院における多職種連携 病院と地域医療の連携② MSW の役割 (3)-2 地域包括ケアシステムと多職種連携	講義	14階教室	鳥山GS
7	11/20	木	3	(3)-3 地域包括ケアシステムと多職種連携 (4) 在宅歯科医療と多職種連携 病院と地域医療の連携③ 訪問看護ステーションの役割	講義	14階教室	鳥山GS
8	11/27	木	3	(1)-5 病院における多職種連携 認定看護師の役割① がん性疼痛看護	講義	14階教室	鳥山GS

9	12/4	木	3	(1)-6 病院における多職種連携 認定看護師の役割② 脳卒中リハビリ看護	講義	14階教室	鳥山GS
10	12/11	木	2	(1)-7 病院における多職種連携 理学療法士の役割	講義	14階教室	鳥山GS
11	12/18	木	3	(1)-8 病院における多職種連携 言語聴覚士の役割	講義	14階教室	鳥山GS
12	1/8	木	3	(1)-9 病院における多職種連携 放射線技師の役割	講義	14階教室	鳥山GS
13	1/15	木	3	(1)-10 病院における多職種連携 臨床検査技師の役割	講義	14階教室	鳥山GS
14	1/22	木	3	(3)-4 地域包括ケアシステムと多職種連携 (5)-1 多職種連携における歯科衛生士業務 行政勤務歯科衛生士の役割	講義	14階教室	鳥山GS
15	1/29	木	3	(5)-2 多職種連携における歯科衛生士の役割	講義	14階教室	鳥山GS

科 目 名	歯科衛生実践論	修得単位数	2
担当教員 ※:実務経験を有する教員	※江口貴子、※菅野亜紀、※上島文江		
ナンバリング	B0603-2A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科衛生士として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、対象者の歯・口腔の状況や保健行動上の問題点を解決し、支援していくために必要な知識や考え方を教授している。		

1. 教科の特徴

本教科は、歯科衛生士自身が対象者から情報を収集し、歯・口腔の状況や保健行動上の問題点を明確にして、問題の解決・改善を目指し、人々の健康づくりを支援していくために必要な基本的知識を修得する科目である。なお、本教科は実習Ⅲを受講するために必要な知識を修得する科目でもあるため、実習科目と結びつけながら理解を深めていただきたい。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○		○	○				○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

歯科衛生業務を論理的に実践するために、科学的思考およびクリティカルな思考能力をを身につける上で必要な基本的知識を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 歯科衛生過程の考え方を説明する。(10%)
- 2) 口腔清掃状態および歯周組織のアセスメントについて説明する。(10%)
- 3) 口腔機能評価について説明する。(15%)
- 4) 口腔健康管理に必要な情報の収集方法について説明する。(10%)
- 5) 情報の意味を解釈し、問題点を分析する。(10%)
- 6) 歯科衛生介入計画を立案する。(10%)
- 7) 対象者の目標達成度を評価する方法を説明する。(10%)
- 8) 歯科衛生過程における記録(書面化)について説明する。(15%)
- 9) 動機づけ面接について説明する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：PBL、グループ討議、プレテスト・ポストテスト
- 3) 媒体：教科書、プリント、スライド

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：講義時にプレテスト、ポストテストを実施する。
- 2) 総括的評価：

定期試験において、講義内容の理解度を真偽選択、論述等の記述で評価する。

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修（各回 10～15 分）
教科書の関連ページを事前に読んでおくこと。
第 1 回:P.100～104、121～127
第 2 回:P.133～144
第 3 回:P.158～166
第 4 回:P.153～157
第 5・6 回:P.108～115
第 7・8 回:P.115～117
第 9・10 回:P.117～119
第 11・12 回:P.330～338
第 13 回:P.360～365
第 14 回:P.268～288
第 15 回:P.96～98、107

- 2) 事後学修（各回 15～20 分）
ブレテストを学修のポイントとし、講義内容を見直すこと。

- 3) 事前学修・事後学修の評価
事前学修の評価：講義前に実施するブレテストで評価する。
事後学修の評価：次回講義開始前に実施するポストテストで評価する。

7. 教科書

一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	医歯薬出版
---------------------	------------------------------	-------

8. 参考図書

E・M ウィルキンス 著／遠藤圭子、中垣晴男、西真紀子、眞木吉信、松井恭平、山根瞳、若林則幸 監訳	ウィルキンス歯科衛生士の臨床 原著第 11 版	医歯薬出版
吉田直美、遠藤圭子、渡邊麻理、鈴木純子 著	歯科衛生士教育サブテキスト 歯科衛生過程 HAND BOOK	クインテッセンス出版
一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 ほか編	よくわかる歯科衛生過程	医歯薬出版
松本千明 著	医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に	医歯薬出版

9. オフィスアワー
講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について
原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。
ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SBOs など）	方略（LS）	場所	担当者
1	4/14	月	2	ガイダンス、POS 理論と歯科衛生過程 1. 歯科衛生過程の概説 2. 歯科衛生アセスメント 3. 情報についてさらに必要な項目（5W2HI） SBOs1)	講義	14階教室	菅野江口上島
2	4/21	月	2	口腔内情報の収集(1) 1. 歯肉・舌・口腔粘膜の検査 2. 歯面の付着物・沈着物の検査 3. 口腔清掃状態を表す指数の種類と指数の算定方法 SBOs2)	講義	14階教室	菅野江口上島
3	4/28	月	2	口腔内情報の収集(2) 1. 歯周組織の状態を表す指数の種類 2. 口腔清掃状態を表す指数の算定 SBOs2)	講義	14階教室	菅野江口上島
4	5/12	月	2	口腔機能評価の項目と評価 1. 口腔機能評価の概要・意義 2. 口腔機能評価の種類 3. 口腔機能を測定する機器 4. 口腔機能の測定方法 5. 口腔機能の評価 SBOs3)	講義	14階教室	菅野江口上島
5	5/19	月	2	口腔健康管理に必要な情報の収集方法 1. 主観的情報を収集 2. 客観的情報を収集 3. 不足のデータの列挙 4. 情報の整理・分類 SBOs4)	講義 PBL	14階教室	菅野江口上島
6	5/26	月	2	情報の「解釈」「分析」 1. 問題点の明確化 2. 原因の分析 SBOs5)	講義 PBL	14階教室	菅野江口上島
7	6/2	月	2	歯科衛生介入計画の立案 1. 問題点の優先順位 2. 長期目標と短期目標 SBOs5)	講義 PBL	14階教室	菅野江口上島
8	6/12	木	3	具体的な介入計画の立案 1. 介入に必要な器材の列挙 2. 指導に用いる媒体の準備 SBOs6)	講義 PBL	14階教室	菅野江口上島

9	6/19	木	3	記録(書面化)の必要性 1. 記録(書面化)の書き方 2. 記録の必要性 SBOs7、8)	講義	14階教室	菅野江口上島
10	6/26	木	3	記録(書面化) 1. 歯科衛生士業務記録の作成 2. 歯科衛生士実地指導記録の作成 SBOs7、8)	講義	14階教室	菅野江口上島
11	7/3	木	3	小児症例に対する介入計画の立案(1) SBOs1～6)	講義 PBL グループ 討議	14階教室	菅野江口上島
12	7/7	月	2	高齢者症例に対する歯科保健指導(1) SBOs1～6)	講義 PBL グループ 討議	14階教室	菅野江口上島
13	7/14	月	2	高齢者症例に対する歯科保健指導(2) SBOs1～6)	講義 PBL グループ 討議	14階教室	菅野江口上島
14	9/1	月	2	動機づけ面接 SBOs9)	講義	14階教室	菅野江口上島
15	9/8	月	2	歯科衛生実践論のまとめ 1. 歯科衛生過程 2. セルフケアに必要な器材と使用方法等の指導 SBOs1～8)	講義	14階教室	菅野江口上島

科 目 名	地域歯科衛生学	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※杉原直樹		
ナンバリング	B0604-2A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師として実務経験のある教員が、勤務経験を活かし、現場に即した講義を行っている。		

1. 教科の特徴

地域歯科衛生学は、医学・歯科医学を統合的に理解して全人的な歯科医療を提供するために必要な基本的な知識の根幹となり、歯科衛生士として公衆衛生活動および福祉活動を実践するために必須である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
	○	○		○		○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

国民の健康づくりを支援するために、包括的な保健・医療・福祉（介護）制度を理解し、公衆歯科衛生学の知識を身につけ、歯科衛生士として地域における保健・医療・福祉（介護）の活動を展開できる能力を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1）公衆衛生学および公衆歯科衛生学について概説する。（10％）
- 2）地域歯科保健に関連する法律について概説する。（40％）
- 3）ライフステージで行われている歯科保健活動を説明する。（40％）
- 4）国際的な公衆歯科衛生について説明する。（10％）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1）受動的方法：講義
- 2）能動的方法：プレテスト・ポストテスト、ディスカッション
- 3）媒体：教科書、参考図書、プリント、コンピュータ画像

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1）形成的評価：
プレテスト・ポストテストを行う。
- 2）総括的評価：
定期試験については、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する。（90％）
課題の提出状況、授業の出欠状況、日常的な授業の取組状況などを評価する。（10％）

6. 事前学修・事後学修

1）事前学修

- 第1回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第2回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第3回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第4回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第5回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第6回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第7回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）
- 第8回：教科書の該当ページを読んでポイントを掴んだ上で授業に臨むこと（15分）

2）事後学修

- 第1回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第2回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第3回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第4回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第5回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第6回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第7回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）
- 第8回：授業内容を再度見直し、曖昧な部分は再確認する（15分）

3）事前学修・事後学修の評価

事前学修：講義当日の開始時にプレテストで確認する。

事後学修：次回講義の開始時に、事前学修のプレテストと共にポストテストを行う。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間 と社会の仕組み 1 保健生態学	医歯薬出版
杉原直樹、福田雅臣、川戸貴 行、小松崎 明、有川量崇 監 修	口腔衛生学 2024	一世出版

8. 参考図書

一般財団法人 厚生労働統計協会	国民衛生の動向・厚生 の指標 2024/2025	厚生労働統計 協会
--------------------	--------------------------------	--------------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時／本館 10 階衛生学研究室

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目（SB0s など）	方略 (LS)	場 所	担当者
1	6/16	月	4	(1)-1 公衆歯科衛生学概論 公衆衛生学、公衆歯科衛生学とは 健康政策の概念（プライマリー ヘルスケアとヘルスプロモーション） ソーシャルキャピタル 健康危機管理と消費者保健 地域保健活動の進め方（PDCA サイクル） 予防のアプローチ（ポピュレーションア プローチとハイリスクアプローチ） 健康教育・学習、保健指導、健康相談 日本における公衆衛生活動 地域保健法（保健所と市町村保健センター）	講義	14 階 教室	杉原
2	6/18	水	3	(1)-2 公衆歯科衛生学概論 健康増進法と健康日本21 健康日本 21（第3次） 歯科口腔保健の推進に関する法律	講義	14 階 教室	杉原
3	6/23	月	4	(2) 母子歯科保健 母子保健に関連する基本的事項 母子保健法 妊産婦歯科健康診査 1 歳 6 か月児歯科健康診査 3 歳児歯科健康診査	講義	14 階 教室	杉原
4	6/30	月	4	(3) 学校歯科保健 学校保健の領域構造 学校安全保健法 学校歯科医 学校における健康診断 定期健康診断（歯・口腔	講義	14 階 教室	杉原
5	7/7	月	4	(4) 成人および職域歯科保健 健康増進法に基づく保健事業 特定健康診査・特定保健指導 労働者の 3 管理 労働基準法 労働安全衛生法	講義	14 階 教室	杉原

				歯科医師による特殊健康診断 (歯の酸蝕症) トータルヘルスプロモーションプラン (THP)			
6	7/14	月	4	(5)高齢者歯科保健 老人と加齢 日本の老人保健・医療・福祉(介護) 認知症施策推進大綱 高齢者虐待 多職種連携	講義	14 階 教室	杉原
7	9/1	月	4	(6)障害者歯科保健 障害の概念(ICF) ノーマライゼーションと ユニバーサルデザイン 日本における障害者政策 (障害者に関する法律) 自立支援システムの全体像 障害児・者の歯科保健管理 (7)災害時の歯科保健 災害医療とは NBC 災害 災害発生時の医療連携 災害保健医療活動 災害時の歯科衛生士の活動	講義	14 階 教室	杉原
8	9/8	月	4	(8)国際歯科保健 国際協力とは 国際協力の仕組み 国際連合とWHO 国際協力機関	講義	14 階 教室	杉原

科 目 名	実習Ⅲ(歯科保健指導)	修得単位数	1
担当教員 ※:実務経験を有する教員	※江口貴子、※菅野亜紀、※上島文江		
ナンバリング	B0605-2A		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科衛生士として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、対象者に好ましい生活習慣や態度を養成するために行われる専門的な指導に関する知識・技術・態度について教育を行っている。		

1. 教科の特徴

本教科は、歯科衛生実践論等で修得した知識を踏まえ、対象者に対し、好ましい生活習慣や態度を養成するために行われる専門的な指導に関する技術・態度を学び、人々の健康づくりを支援できる能力を習得する科目である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に 基づく行動 力	③社会貢 献力	④コミュ ニケーショ ン能力	⑤協働す る力	⑥自己 研鑽力	⑦問題探 求力	⑧専門的 実践能力
○		○	○				○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

健康づくりの支援を行うために、各ライフステージの口腔健康管理や生活習慣の指導に必要な技能・態度を身につける。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1) 医療面接(メディカルインタビュー)を実施する。(5%)
- 2) 対象者の生活環境を把握する。(10%)
- 3) 対象者の全身的な健康状態を把握する。(10%)
- 4) 口腔内写真撮影の手順に沿って写真撮影を実施する。(10%)
- 5) 対象者の歯・口腔の状況(正常・異常)について評価する。(10%)
- 6) 対象者の口腔機能を把握する。(10%)
- 7) 対象者の情報をもとに歯科衛生過程のプロセスを実施する。(25%)
- 8) 歯科衛生介入時に対象者の年齢や認知機能に配慮する。(10%)
- 9) 歯科衛生アセスメントから評価までを記録(書面化)する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：実習、PBL、グループ討議、ブレテスト、ポストテスト
- 3) 媒体：教科書、スライド、プリント

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1) 形成的評価：実習に対する技能、態度の評価を行う。
各回の課題内容を評価する。

- 2) 総括的評価：各回の課題内容を評価する。(20%)
指定課題の作成内容を評価する。(30%)
指定課題において技能の確認を行う。(50%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修（各回 10～15 分）教科書の関連ページを読んでおくこと
第 1 回：p90～104
第 2 回：p136～138 歯科診療補助論第 2 版 p73～74
第 3 回：p104～122、p126～136
第 4 回：p123～126
第 5 回：p66～89
第 6 回：p66～89
第 7 回：p66～89
第 8 回：p136～138 歯科診療補助論第 2 版 p73～74
第 9 回：各自の歯科衛生介入の確認を行う。
第 10 回：p245～265
第 11 回：p66～89
第 12 回：p66～89
第 13 回：各自の歯科衛生介入の確認を行う。
第 14 回：各自口腔衛生管理の用具と使用法について復習を行う。
第 15 回：本科目の総復習を行う。

2) 事後学修（各回 15～20 分）

- 第 1～15 回：講義・実習を振り返り、重要ポイントをリストアップする。

3) 事前学修・事後学修の評価

- 第 1～15 回：講義開始時に前回講義に関する質問を行い、理解度を確認する。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第 2 版	医歯薬出版
--------------------	---------------------------------------	-------

8. 参考図書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置・歯科保健指導	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会 監修	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 2 栄養と代謝	医歯薬出版
E・M ウィルキンス 著／遠藤圭子、中垣晴男、西 真紀子、眞木吉信、松井恭平、山根 瞳、若林則幸 監訳	ウィルキンス歯科衛生士の臨床 原著 第 11 版	医歯薬出版
(公財) 日本学校保健会	学校歯科保健参考資料 「生きる力」 を育む学校での歯・口の健康づくり 改訂版	社 団 法 人 日本学校歯 科医会

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目（SBOs など）	方略 (LS)	場 所	担当者
1	4/8	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	オリエンテーション ・対象者の全身状況・健康状態の把握 2 生活習慣の把握（食生活と栄養・食習慣 / の把握・栄養と口腔保健の関連） 3 医療面接の方法 ・SBOs1、2、3)	講義 実習	14 階 教 室	江口 菅野 上島
2	4/15	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	歯科衛生アセスメント 1(情報収集) ・口腔内写真撮影① 2 上下顎正面観等の 5 枚撮影 / （口腔内写真撮影用カメラの使用方法や 3 口角鉤の使用方法） ・SBOs4)	示説 実習	西棟 5 階 実 習 室	江口 菅野 上島
3	4/22	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	歯科衛生アセスメント 2 ・歯・口腔状態の把握：歯肉観察、 2 歯肉のみかたについて / （正常な歯肉や PMA Index の理解） 3 PCR・OHI ・SBOs5)	示説 実習	14 階 教 室 実 験 室	江口 菅野 上島
4	5/13	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	歯科衛生アセスメント 3 ・口腔機能の把握 2 （発音・味覚・唾液・摂食・嚥下・ / 口腔周囲筋 等） 3 SBOs6)	示説 実習	西棟 5 階 実 習 室	江口 菅野 上島
5	5/20	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	歯科衛生アセスメント 4 ・情報の整理・分析 2 （S データ・O データの整理、分類） / SBOs7)	PB L グ ル ー プ 討 議	14 階 教 室	江口 菅野 上島

6	5/27	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	問題点の明確化 SBOs7)	PB L グループ 討議	14 階 教室	江口 菅野 上島
7	6/3	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	歯科衛生診断・計画立案 介入のための計画立案 優先順位と目標設定 SBOs7)	PBL グループ 討議	14 階 教室	江口 菅野 上島
8	6/10	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	歯科衛生アセスメント 5 口腔内写真撮影② 口腔内写真撮影用ミラーを使った口腔 内写真撮影 (口腔内撮影用カメラや口腔内写真撮影 用ミラーの使用法の理解) SBOs4)	示説 実習	西棟 5 階 実習室	江口 菅野 上島
9	6/17	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	歯科衛生介入と評価 問題解決のための指導 SBOs7、8)	示説 実習	西棟 5 階 実習室	江口 菅野 上島
10	6/24	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	記録(書面化) 口腔衛生管理のポイント (術者磨き、他者磨き) SBOs7)	示説 実習	14 階 教室 実験室	江口 菅野 上島
11	7/1	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	リスク対象別(小児)の計画立案 SBOs7)	PBL グループ 討議	14 階 教室	江口 菅野 上島

12	7/8	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	リスク対象別(高齢者、特別配慮を要する 者)の計画立案 SBOs7)	PBL グループ 討議	14 階 教室	江口 菅野 上島
13	7/15	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	リスク対象別(高齢者、特別配慮を 要する者)の歯科衛生介入・書面化 (介入のフィードバックも行う) SBOs7、8、9)	PB L グループ 討議	西棟 5 階 実習室	江口 菅野 上島
14	9/2	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	口腔衛生管理の用具と使用法についての 課題作成と発表 SBOs7)	PBL グループ 討議	14 階 教室	江口 菅野 上島
15	9/9	火	1 ・ 2 / 3 ・ 4	歯科保健指導の総括・確認 SBOs7)	講義 実習	14 階 教室 実験室	江口 菅野 上島

科 目 名	演習Ⅱ（歯科保健指導）	修得単位数	1
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※永井由美子、※江口貴子		
ナンバリング	B0606-2B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科衛生士として実務経験のある教員が、口腔衛生管理について症例を提示し、臨床の経験を活かし、歯科保健指導論に即した演習を行う。		

1. 教科の特徴

歯科衛生実践論・実習Ⅲ・コミュニケーション理論と実際に踏まえ、歯科衛生士の活動に必要な思考法である歯科衛生過程（対象の抱えている問題を明確化し、解決方法を計画・介入していくために必要な思考と行動のプロセス）を応用し活用できるようになるため、演習Ⅱでは、歯科衛生過程の一連のプロセスにより、対象者のニーズを的確に把握し、科学的な思考を持って介入することで、人々の健康の維持・増進に寄与する能力の修得を目指す。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○		○	○		○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

対象者のニーズに合わせた歯科衛生上の問題を解決するために科学のおよびクリティカルな思考能力を高めるために必要な知識・技能、態度を習得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1）歯科衛生過程（アセスメント・診断・計画立案・介入・評価・書面化）の概念を説明する。(10%)
- 2）歯科衛生上の問題解決に必要な情報を収集する。(10%)
- 3）歯科衛生上の問題とその原因を明示する。(10%)
- 4）明確化した問題を解決するための介入計画を立案する。(10%)
- 5）立案した計画を基に、歯科衛生介入を実施する。(10%)
- 6）歯科衛生過程の概念に基づき症例検討を実施し、報告する。(25%)
- 7）模擬患者演習において患者の生活背景や身体的、精神的特徴に配慮する。(15%)
- 8）評価および記録する。(10%)

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1）受動的方法：
講義 示説
- 2）能動的方法：
PBL、ロールプレイ、模擬患者演習
- 3）媒体：
教科書、参考図書、PowerPoint、配布資料（プリント）

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1）形成的評価：
毎時提出するワークシート
毎時出題する小テスト
- 2）総括的评价：
形成的評価の結果（40%）
平常点評価（授業参加状況・模擬患者演習実施状況）（25%）
課題レポート（提出物期限厳守）（35%）

6. 事前学修・事後学修

1）事前学修

- 第 1 回：歯科衛生実践論、実習Ⅲを振り返り、歯科衛生過程についての知識（教科書 P100～120）を確認する。（15 分）
コミュニケーション理論と実際に振り返り、医療面接に関する知識（教科書 P121～127）を確認する。（10 分）
- 第 2 回：教科書 P108～110 を確認する。（10 分）
- 第 3 回：教科書 P110～117 を確認する。（10 分）
- 第 4～9 回：各グループにて課題を確認する。（10 分）
- 第 10～11 回：各グループにて発表の練習を行う。（15 分）
- 第 12 回：各グループにて発表の内容を振り返る。（10 分）
- 第 13 回：歯科衛生アセスメントの部分（教科書 P108～110）を復習する。（10 分）
- 第 14 回：検討症例で考えられる口腔有害事象をリストアップする。（15 分）
- 第 15 回：14 回までに配布された資料および教科書を再確認し、重要ポイントをリストアップする。（15 分）

2) 事後学修

第 1 回：教科書、当日配布資料を再確認し、重要ポイントをリストアップする。(15 分)

第 2～3 回：小テストの復習を行う。(10 分)

第 4～11 回：各グループにてワークシート課題を仕上げる。(10 分)

第 12 回：ワークシート課題を仕上げ提出する。(15 分)

第 13 回：検討症例の臨床検査データから予想される全身状態と内服薬の副作用をリストアップする。(20 分)

第 14 回：提出課題の不足部分を再確認し重要ポイントをリストアップする。(15 分)

第 15 回：小テストに出題された内容を再確認し、重要ポイントをリストアップし、提出課題を仕上げる。(15 分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修：講義当日の開始時にディスカッションで確認する。

事後学修：次回講義の開始時に、事前学修の小テスト、ディスカッションを行う。

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科予防処置論・歯科保健指導論 (第2版)	医歯薬出版
--------------------	--------------------------	-------

8. 参考図書

E・M ウィルキンス 著／遠藤圭子、中垣晴男、西 真紀子、眞木吉信、松井恭平、山根 瞳、若林則幸 監訳	ウィルキンス 歯科衛生士の臨床原著 11 版	医歯薬出版
---	------------------------	-------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時 限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場 所	担当者
1	10/9	木	2	SBOs 1) 【ガイダンス・歯科衛生過程の復習】 ・歯科衛生過程の概念と構成要素 ・医療面接の概要	講義	14 階 教 室	永井 江口
2	10/16	木	2	SBOs 2) 3) 【事例検討1】 ・事例提示 ・歯科衛生アセスメント	示説 PBL	14 階 教 室	永井
3	10/23	木	2	SBOs 3) 4) 【事例検討1】 ・歯科衛生診断と歯科衛生計画の立案	示説 PBL	14 階 教 室	永井
4	10/30	木	1	SBOs 2) 【事例検討2】 ・模擬患者提示 歯科衛生アセスメント① ・医療面接実施 (歯科衛生上の問題、原因、解決に有用な情報を見出す) ・主観的情報と客観的情報の分類	示説 模擬 患者 演習 PBL	14 階 教 室	永井 江口
5	10/30	木	2	SBOs 2) 【事例検討2】 歯科衛生アセスメント② ・情報を歯科衛生ニーズに分類 ・問題点と原因を整理し、解釈分析	示説 模擬 患者 演習 PBL	14 階 教 室	永井 江口
6	11/13	木	2	SBOs 3) 【事例検討2】 歯科衛生アセスメント③ ・不足データの収集 (情報の解釈・分析を歯科衛生診断に結びつける)	示説 PBL	14 階 教 室	永井 江口
7	11/20	木	2	SBOs 3) 4) 【事例検討2】 歯科衛生診断 ・情報を統合し、歯科衛生診断文を作成	示説 PBL	14 階 教 室	永井 江口

8	11/27	木	2	SBOs 4) 5) 【事例検討2】 歯科衛生計画立案① ・長期目標、短期目標を設定	示説 PBL	14 階 教室	永井 江口
9	12/4	木	2	SBOs 4) 6) 【事例検討2】 歯科衛生計画立案② ・模擬患者演習準備と計画立案 (模擬患者演習の準備状況報告)	示説 PBL ロール プレイ	14 階 教室	永井 江口
10	12/11	木	3	SBOs 5) 7) 【事例検討2】 歯科衛生介入 ① ・模擬患者演習 (歯科衛生介入を実施)	示説 模擬 患者 演習 PBL	14 階 教室	永井 江口
11	12/11	木	4	SBOs 5) 7) 【事例検討2】 歯科衛生介入 ② ・模擬患者演習 (歯科衛生介入を実施)	示説 模擬 患者 演習 PBL	14 階 教室	永井 江口
12	12/18	木	2	SBOs 8) 【事例検討2】 評価・書面化 ・模擬患者からのフィードバック (目標達成度の評価) ・歯科衛生評価および書面化 (SOAP)	示説 模擬 患者 演習 PBL	14 階 教室	永井 江口
13	1/15	木	2	SBOs 2) 3) 【事例検討3】 ・事例提示 ・歯科衛生アセスメント作成	示説 演習	14 階 教室	永井 江口
14	1/22	木	2	SBOs 2) 3) 【事例検討3】 ・口腔衛生介入の計画を立案	示説 演習	14 階 教室	永井 江口
15	1/29	木	2	全体の総括 課題レポートの提出とまとめ SBOs 3) 4)	講義	14 階 教室	永井 江口

科 目 名	卒業研究	修得単位数	3
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※安松 啓子、※鳥山 佳則、※杉戸博記、※菅野 亜紀、 ※永井由美子、※多田美穂子、※江口貴子、※中田悠、※有友たかね、 ※岩澤菜々恵		
ナンバリング	B0801-2C		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師、歯科衛生士として実務経験のある教員が歯科衛生学に関連するテーマの研究指導を行っている。		

1. 教科の特徴

学んできた歯科衛生学をもとに自分自身でテーマを設定し、客観的事実や論理的推論を通じて、問題解決力を養う。本学のディプロマポリシーの2. 高齢社会の進展に伴い必要とされる歯科医療の変化を把握し対応できる人材、4. 教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域社会の種々な場に対応できる人材となるための教科である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題探求力	⑧専門的実践能力
○	○	○	○	○	○	○	

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

将来、歯科衛生士として、そして一社会人として自ら考え、行動する能力を養うために、研究遂行に必要な基礎的知識、技能を修得する。

3. 行動目標（SB0s：Specific Behavioral Objectives）

- 1）研究の進め方および概要が説明する。（5%）
- 2）日常臨床の中でテーマを見いだし研究課題を設定する。（5%）
- 3）研究倫理について説明する。（5%）
- 4）研究課題に関連する資料・文献の収集を実践する。（20%）
- 5）研究計画の立案と研究方法の選択を実践する。（5%）
- 6）研究データの収集と分析を実践する。（20%）
- 7）研究成果を論理的に記述する。（30%）
- 8）研究成果をわかりやすく発表する。（10%）

4. 方略（LS：Learning Strategy）

- 1）受動的方法：講義
- 2）能動的方法：演習、テーマ設定、研究計画、ディスカッション
- 3）媒体：スライド、パソコン（文献検索、計画書作成、論文作成）

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1）形成的評価：レポート・研究計画書・観察記録、卒業研究発表
- 2）総括的評価：卒業研究論文（途中提出 10%+最終提出 50%、計 60%）
レポート・研究計画書・観察記録、（30%）、卒業研究発表（10%）

6. 事前学修・事後学修

- 1）事前学修
第1回：春季休暇中に取り組んだ課題「私が疑問に思うこと」提出
第3-14回：課題発表準備
第15回以降：関連文献調査
- 2）事後学修
第4-14回：課題発表の質疑応答の記録
第15回以降：関連文献調査
- 3）事前学修・事後学修の評価
レポート・研究計画書・観察記録

7. 教科書

指定しない

8. 参考図書

文部科学大臣決定	研究活動における不正行為の対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日）	文部科学省
	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（令和5年改正）	文部科学省、厚生労働省
日本歯科衛生学会 監修	歯科衛生研究の進め方 論文の書き方 第3版	医歯薬出版
眞木吉信 監著	歯科衛生士教育サブテキスト 卒業研究 HAND BOOK	クインテッセンス出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SBOs など）	方略（LS）	場所	担当者
1 ・ 2	4/9	水	A 3 4 B 3 4	オリエンテーションと講義 各自春休みに考えた「私が最近疑問に思っていること」の発表グループ決め	講義 演習	14 階 教室	安松
3 ・ 4	4/16	水	A 3 4 B 3 4	研究方法の選択 順番を決め全員で各自が考えた「私が最近疑問に思っていること」の内容を検討する	講義 演習	14 階 教室	安松
5 ・ 6	4/23	水	A 3 4 B 3 4	研究課題に関連する資料・文献の収集 i 図書館の利用 研究課題に関連する資料・文献の収集 ii 電子ジャーナルの利用	講義 演習	14 階 教室	阿部
7 ・ 8	5/7	水	A 3 4 B 3 4	倫理に関する制度 順番を決め全員で各自が考えた「私が最近疑問に思っていること」の内容を検討する	講義 演習	14 階 教室	鳥山
9 ・ 10	5/14	水	A 3 4 B 3 4	研究計画の作成法 順番を決め全員で各自が考えた「私が最近疑問に思っていること」の内容を検討する	講義 演習	14 階 教室	安松

11 ・ 12	5/21	水	A 3 4	順番を決め全員で各自が考えた「私が最近疑問に思っていること」の内容を検討する	講義 演習	14 階 教室	安松	
		B 3 4	順番を決め全員で各自が考えた「私が最近疑問に思っていること」の内容を検討する					
13 ・ 14	5/28	水	A 3 4	順番を決め全員で各自が考えた「私が最近疑問に思っていること」の内容を検討する	演習	14 階 教室	安松	
		B 3 4						
15 ～ 22	5/30～ 6/20	金	表 の と お り	今までの発表に対する質疑の「まとめファイル」作成と提出 教員と研究テーマを決定し仮の計画書を立案	演習	14 階 教室	安松	
23 ・ 24	6/27	金	A 3 4	研究計画書（仮）の策定 そのための文献検索	講義 演習	14 階 教室	安松	
		B 1 2	研究計画書（仮）の策定 そのための文献検索					

25 ・ 26	7/4	金	A 1 2	研究計画書（仮）の策定 そのための文献検索		講義 演習	14 階 教室	安松	
			B 3 4						
27 ～ 30	7/11 9/5	金	表 の と お り	研究計画書（仮）の提出期限 指導教員の発表と挨拶・打ち合わせ		演習	14 階 教室	安松 指導 教員	
		回数	月日	曜 日	時限				
					A 班				B 班
		27・ 28	7/11	金	1・2				3・4
		29・ 30	9/5	金	3・4	1・2			

・【後期】

回数	月日	曜日	時限	内容項目（SBOs など）	方略（LS）	場所	担当者
1 ～ 4	10/2	木	1 2 3 4	3 年生卒業研究発表会の聴講	講義	発表会場	安松
5	10/9	木	4	研究計画書の書き方 必要に応じ倫理審査申請書の書き方	講義	14 階教室	安松
6 ～ 11	10/16 10/23 10/30 11/6 11/13 11/20	木 木 木 木 木 木	4 4 4 4 4 4	研究計画書の策定と提出 指導教員に相談し、許可が出たら提出 11/6 研究計画書提出期限 研究計画書に従い研究を遂行する スケジュールの調整 機材の手配、実験室・フィールドの確保	演習	14 階教室	指導教員

科 目 名	臨床・臨地実習 I	修得単位数	8
担当教員 ※：実務経験を有する教員	※菅野亜紀、※吉田隆、※杉戸博記、※永井由美子、※多田美穂子、 ※江口貴子、※中田悠、※有友たかね、※上島文江、※岩澤菜々恵 ※エーサン・ビシヤール		
ナンバリング	B0701-2B		
実務経験	あり		
実務経験と教育内容 の関連性	歯科医師、歯科衛生士として実務経験のある教員が、病院、診療所等での勤務経験を活かし、現場に即した実習を行っている。		

1. 教科の特徴

この教科は、実際の歯科診療の場および病棟、高齢者施設など医療・介護の現場において、これまで座学で学んだ知識を臨床に結び付けて実践的に学修するという点が他教科にはない最大の特徴である。口腔保健を担う専門職として、人々の健康を支援できる歯科衛生士として求められる実践的な知識、技能、態度を修得することを目的としている。さらに、さまざまな職種や患者と接することで、コミュニケーション能力の基盤を修得する教科である。

《当該科目》に合格することで修得できるコンピテンシー（○を付してください。）

コンピテンシー（学修成果）							
①人間力	②倫理に基づく行動力	③社会貢献力	④コミュニケーション能力	⑤協働する力	⑥自己研鑽力	⑦問題解決力	⑧専門的実践能力
○	○	○	○	○	○	○	○

2. 一般目標（GIO：General Instructional Objective）

口腔保健を担う専門職として、人々の健康を支援できる歯科衛生士として求められる実践的な知識、技能、態度を修得する。

3. 行動目標（SBOs：Specific Behavioral Objectives）

- 1）口腔保健を担う専門職として必要な知識を概説する。（10％）
- 2）各実習先における歯科衛生士の役割を説明する。（10％）
- 3）各歯科診療における術式と使用器具を説明する。（10％）
- 4）多職種の役割を説明する。（10％）
- 5）各歯科診療に必要な器具・器材を準備する。（30％）
- 6）患者やその家族とコミュニケーションを図る。（20％）
- 7）自己を客観的に評価する。（10％）

※ 各実習先の行動目標の詳細については、臨床実習必携に記載する。

4. 方略（LS：Learning Strategy）

班ごとにローテーションする。

※ ローテーションの詳細については、臨床実習必携に記載する。

- 1）受動的方法： 該当なし
- 2）能動的方法： 臨床実習、ディスカッション
- 3）媒体： 患者、利用者

5. 評価（EV：Evaluation）

- 1）形成的評価：
実習態度の観察記録（20％）
- 2）総括的評価：
口頭試問、実技試験、レポート、客観試験等で評価される。（80％）
実習態度（20％）
※各実習先の具体的な評価方法はガイダンスで確認すること。

6. 事前学修・事後学修

実習前のガイダンスには必ず出席すること。ガイダンス時に実習の注意点や把握しておくべき事項の詳細が説明されるため、把握しておくこと。

1）事前学修

毎回：登院する各実習先の臨床実習必携を確認の上、実習前にその日の目標を立てて準備する。（15分）

2）事後学修

毎回：実習内容を振り返り、事前に立てた目標がどの程度達成できたかを客観的に評価し、改善点を考察する。（20分）

3）事前学修・事後学修の評価

事前学修・事後学修：日々の実習記録の記載内容および最終日に記載する「科のまとめ」から評価する。

7. 教科書

特になし		
これまで購入した教科書を各診療科別に活用する		

8. 参考図書

特になし		
------	--	--

9. オフィスアワー

※各実習先で異なるためガイダンスで確認すること。

10. 出席について

- ・遅刻・早退は原則としてそれぞれ1回につき欠席0.5回と計算する。
- ・遅刻・早退となった当日の実習時間の3分の1以上が未履修の場合は、欠席とする。
- ・ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類（遅延証明書等）を提出すること。